

# 3 公共空間の デザイン

### 3 公共空間のデザイン

3-01	概要	3-18	三宮クロススクエアのデザイン
3-04	全体平面図	3-22	三宮クロススクエア—三宮交差点
		3-24	三宮クロススクエア—東エリア
3-06	デザインの考え方	3-30	三宮クロススクエア—北エリア
3-06	デザインスキーム	3-34	三宮クロススクエア—南エリア
3-09	花とみどり	3-38	三宮クロススクエア—国際会館前交差点
3-12	夜間景観	3-40	三宮クロススクエアのデザインディテール
3-14	異常高温対策		
3-15	防災	3-42	税関線のデザイン
3-16	感染症に強いまちづくり	3-44	税関線—市役所前
		3-46	税関線—東遊園地前
		3-52	税関線—磯上側歩道

# 概要

本章では対象範囲における公共空間のデザインの考え方と、第1段階を基本とした三宮クロススクエアの整備・税関線の再整備におけるデザインイメージ（ガイドライン）を示します。



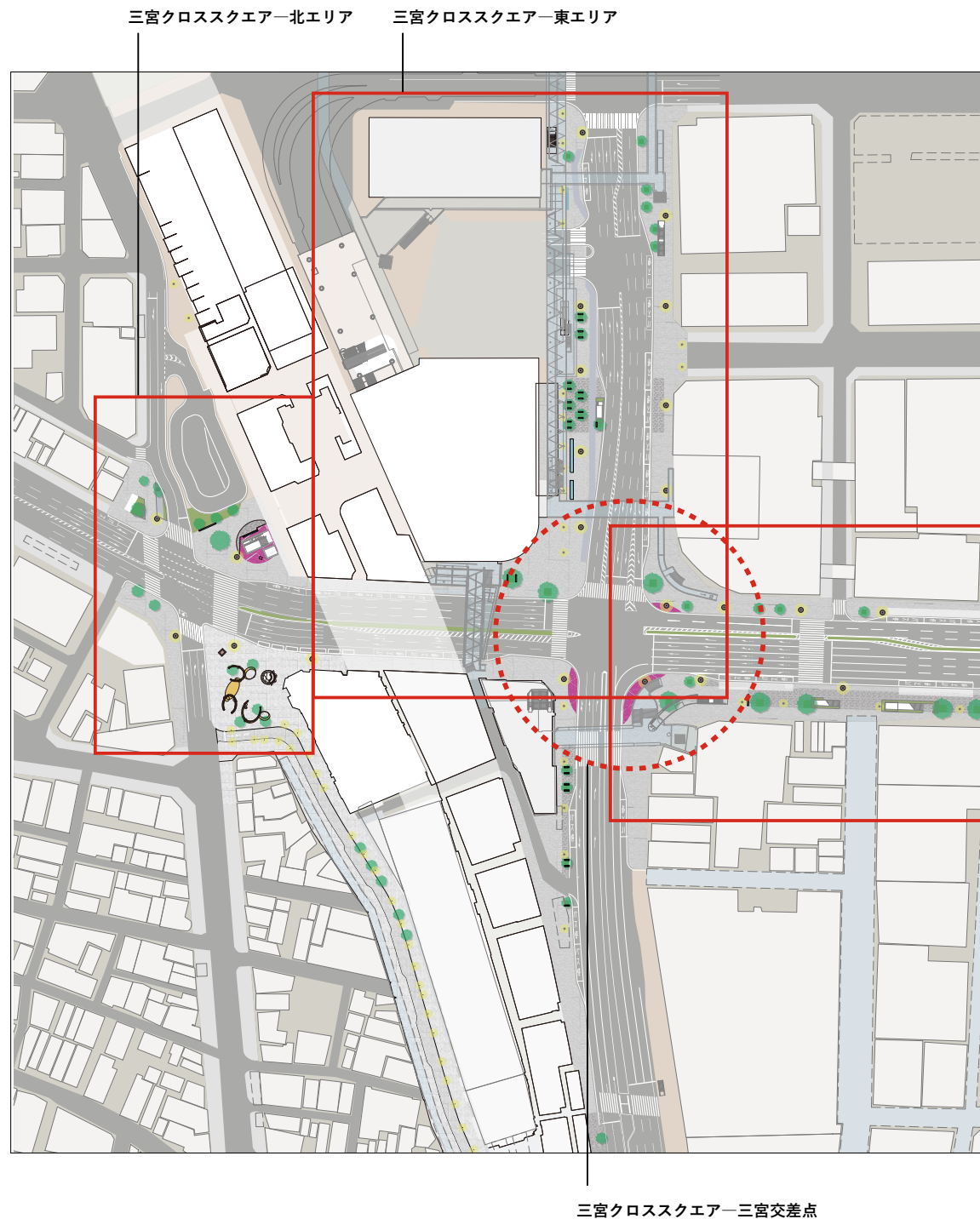
民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。





# 全体平面図

- 公共空間のデザインコードは、三宮北交差点～税関前交差点区間を対象とします。
- 対象範囲の計画平面図（第1段階）を右に示します。
- それぞれのエリアの詳細なイメージは図に示すページにて示します。
- 本章で示すのは現時点での計画イメージであり、実際の整備内容やデザインは変更の可能性があります。
- 整備を進めるうえでは、ユニバーサルデザインを基本とした空間とします。



三宮クロススクエア南エリア

税関線一磯上側歩道



三宮クロススクエア国際会館前交差点

税関線神戸市役所前

税関線東遊園地前



SCALE 1/2600

0m 20m 40m 60m 100m

# デザインの考え方

## デザインスキーム

### 基本事項

- 三宮クロススクエアは訪れる人を迎える神戸の玄関口に相応しい上質で洗練されたデザインとし、三宮クロススクエアと税関線とが一体となり神戸のシンボルロードに相応しいデザインとします。

### 形態

- 洗練された雰囲気形成にふさわしい、装飾を控えたモダンでシンプルな形態を基本とし、沿道建築物との調整を図ります。



▲ 先行整備事例「サンキタ通り」

### 色味

- 「人が主役」として、街行く人々が映えるよう、公共空間は無彩色を中心とした低彩度の色味で構成します。
- 海や山の自然と調和した景観を形成するため、アクセントカラーの使用はできるだけ限定し、落ち着いた色彩とします。

### 素材・仕上げ

- 木材・石などの自然素材や、鋳鉄やアルミ鋳物など仕上がりの美しい高質で穏やかな設えに寄与する素材を場所の特性に応じて用います。
- 打放コンクリート等の単調で人工的な素材を使用する場合は、無機質な印象を与える空間とならないようボリュームを極力抑えるほか、手前に彩りある植栽を配置するなどの工夫を施します。



▲ 素材のイメージ

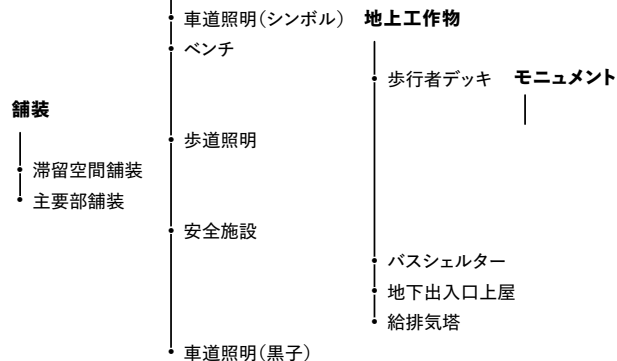
### 要素間の関係

- 魅力的な都市景観の条件として、公共空間を構成する要素に統一感と秩序があることと、変化に富んだ要素が街行く人々を楽しませることの両立が必要であるといえます。
- したがって、公共空間を構成する要素を景観の中で目立たせるもの、目立たせないものに分け、優先順位を下图のように設定した上で各要素のデザインを検討します。
- 本計画範囲においては、特に「人が主役」として人々の服装やアクティビティなどの様子、加えて神戸を象徴する空間として花や緑を最も引き立たせることを原則とし、各要素のデザインを検討します。

#### 目立たせる

人々の服装やアクティビティ、花や緑を最も引き立たせる

#### ストリートファニチャー



#### 目立たせない

▲ 要素間の関係



## 舗装

- 色味は人の活動や花や緑が映えるよう無彩色を基調とします。

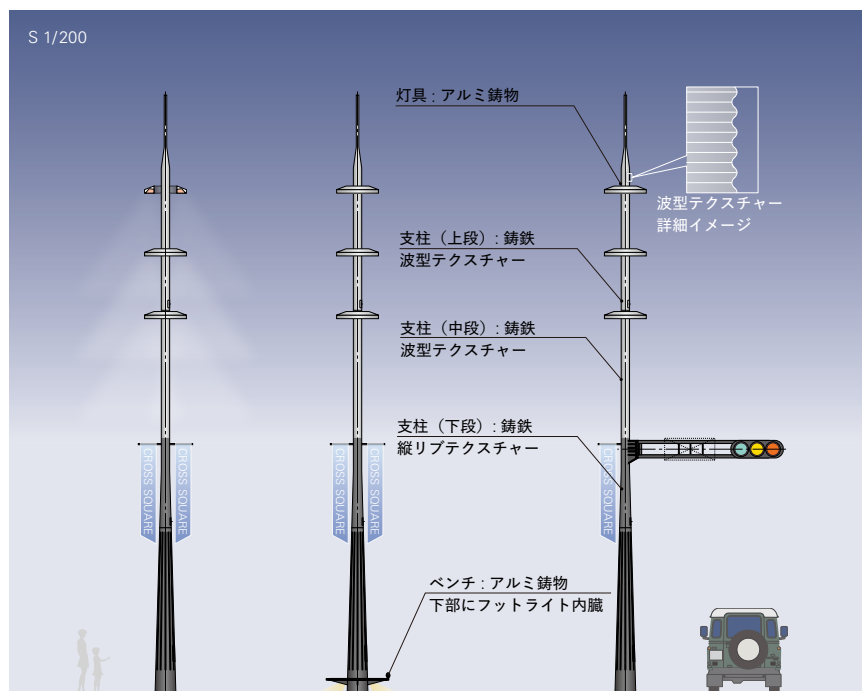
三宮クロススクエア

- 上質で洗練された空間として、神戸の玄関口にふさわしい特別感を演出するため、自然石舗装とします。
- 税関線の道路縦断方向に縦目地を通して空間に緩やかな方向性を与えつつも、大判の石材を使用することでゆったりとした落ち着いた趣を演出します。

## 税関線

- 税関線の道路縦断方向に縦目地を通し、空間に緩やかな方向性を与えつつ、生田川の記憶を継承する「流れ」のイメージを表現し、軸性を演出します。
- 水の流れときらめきをイメージした細長い材（ベース材）と白く短い材（アクセント材）を組み合わせ、自然と歩きたくなる心地よい流れを演出します。

▼例：三宮クロススクエア車道照明のデザインイメージ



## ストリートファニチャー

- 照明やベンチ、ポラードは、素材や色味、プロポーシヨン等互いにデザインに共通性をもたせ、統一感のある景観を演出します。
- 信号や標識などは、車道照明に極力共架させることで、景観の向上を図るとともに、車道照明にはバナーを取り付けられるようにすることで、にぎわいの形成や情報発信に寄与します。

## 地上工作物

- 地下街/地下駐車場の出入口・給排気塔、バスシェルターなどの地上工作物は、それ単体で主張せず、周辺の木立や街路景観の中に溶け込み、馴染むデザインとします。

## 地下出入口上屋

### 給排気塔

- 歩行者の視線・動線を極力妨げない配置・形態とします。
- 地覆の周辺は植栽帯を配置し、構造物の印象を和らげます。
- 街路全体の統一感を演出するとともに、各エリア周辺状況に合わせたデザインとします。

▶ 植栽の背景となる給排気塔のデザイン



## モニュメント

- モニュメントの新設にあたっては、それが高質で穏やかな都市景観の形成に寄与するよう十分に検討を行った上で行います。
- 道路上に位置するモニュメントは、効果的に人々の目にとまり、楽しみを与えるような配置とし、滞留空間の居心地の良さを演出します。

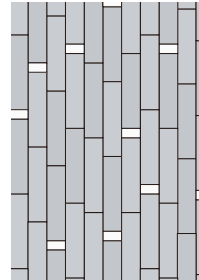
▶ 舗装イメージ

**三宮クロススクエア** 神戸の玄関口にふさわしい特別感を演出する大判の石材  
(ゆったりとした落ち着いた趣)



御影石

**税関線** 水の流れときらめきをイメージした細長い材と短い材との組み合わせ  
(自然と歩きたくなる心地よい流れ)  
※三宮北交差点から布引交差点の間についても、舗装更新時には舗装材の色味・配置の考え方を踏襲する。



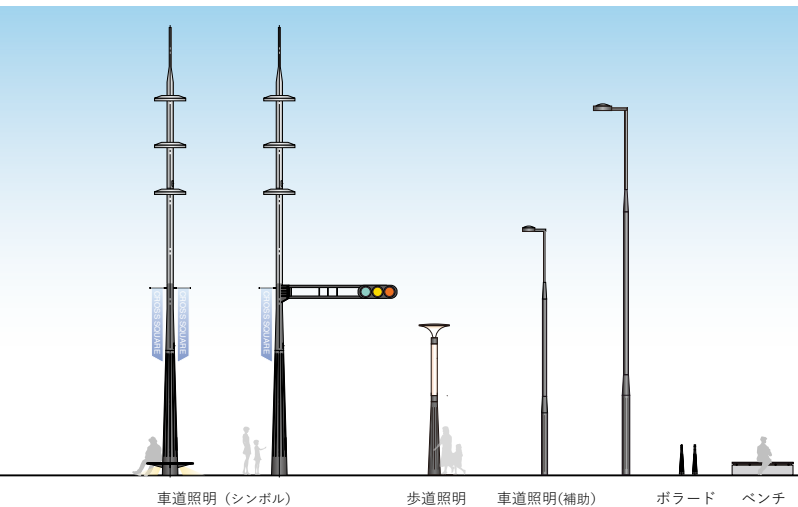
ベース材：ILB  
アクセント材：御影石



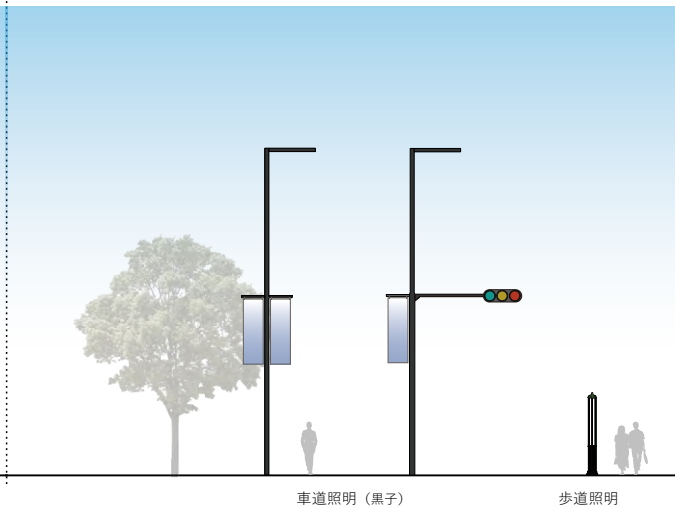
S 1/2500

▶ ストリートファニチャー  
連続立面図

**三宮クロススクエア** 玄関口にふさわしい上質で洗練されたデザイン



**税関線** シンボルロードにふさわしい高質なデザイン



# 花とみどり

神戸では「自然と共に暮らす都市・神戸」を目指し、SDGs、グリーンインフラなどの考えを取り入れた新たな花と緑の戦略である「Living Nature Kobe」を立ち上げ、都市の中に花と緑の高質な空間「自然の景」を創出することで、先取性のある花のまちとしての神戸ブランドを形成します。

都心・三宮の再整備では、神戸が有する六甲山系の緑など自然が身近にあるという神戸の地勢上の特徴を生かしながら、先進性のあるデザインや新しい技術等を取り入れていくことで、都市の中で自然を感じられるよう神戸ならではの花と緑の魅力づくりを推進していきます。

## 花・緑の役割

都心における魅力的な景観づくりだけでなく、居心地の良さや回遊性の向上、健康増進、環境共生への取り組みにつながります。

- ・ 居心地の良い空間の創出
- ・ 訪れるたびに変化のある空間づくり
- ・ SDGsや環境共生など都市の持続可能な発展に資する取り組み
- ・ 訪れたいくなる、歩きたいくなる空間の創出
- ・ 健康づくりやコミュニケーションの場の創出

## 「自然の景」の創出

自然を感じる草植栽の景「Naturalistic Landscaping」のコンセプトを「緑」の基盤としながら、イメージづくりや集客などに貢献する花によるアート空間「Floral Installation」をアクセントとして見せていきます。

一年を通じた季節の変化  
SDGs 的



〈時間の捉え方〉



一時的な空間の変化  
SNS 的

## Naturalistic Landscaping (自然を感じる草花植栽の景)

一年を通じて自然の変化やリズムを楽しむことができる草植栽の手法



## Floral Installation (花によるアート空間の演出)

最盛期の花の美しさを活かし、アートの花で飾られた空間を演出する方法



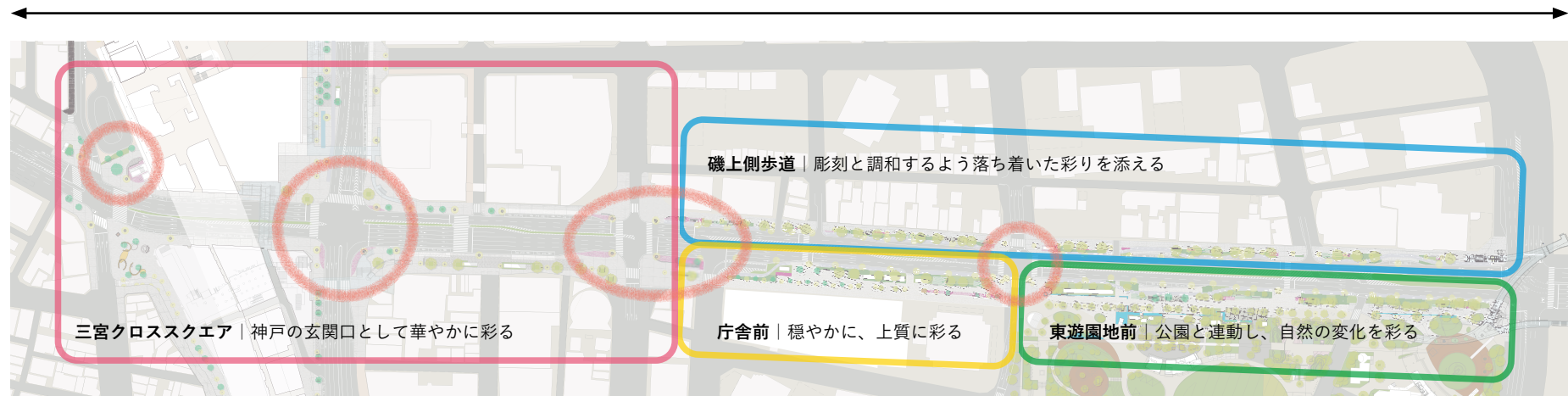
兵庫県立淡路景観園芸学校 / 兵庫県立大学  
緑環境景観マネジメント研究科

## 「えき〜まち空間」・税関線における展開

- ・「フラワーロード」の愛称にふさわしい高質な花の設えとします。
- ・「Naturalistic Landscaping」と「Floral Installation」の組み合わせにより、花と緑の演出を行います。

### Naturalistic Landscaping

開花期だけではなく、あらゆる生育過程における植物の個性に目を向けることで、一年を通じてその自然の変化やリズムが楽しめる空間を創出する。



三宮クロススクエア | 神戸の玄関口として華やかに彩る


磯上側歩道 | 彫刻と調和するよう落ち着いた彩りを添える

庁舎前 | 穏やかに、上質に彩る

東遊園地前 | 公園と連動し、自然の変化を彩る

### Floral Installation

花の瞬間的な価値を生かしたアート空間として、一時的な空間の変化を演出することで、新しい人の流れを創出する。

 花で回遊の拠点（交差点部）の顔をつくる

### 植栽手法

#### 四季の変化を感じる 自然風植栽

宿根草と一年草の風景調和  
宿根草と一年草を組合せ、植栽が周囲の自然やまちなみと一体となる風景をつくる。

季節を通じた植物の変化  
生長サイクルの異なる植物を組合せ、それぞれの開花や結実までの生長の違いを見せる。

#### 環境と共生する 技術による植栽

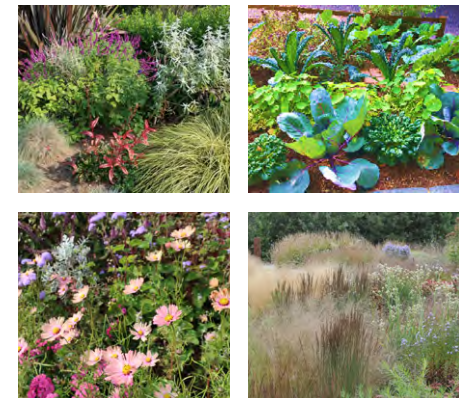
環境に合う植物選び  
地域の気候や土壌に合った場の環境を理解し、必ず環境に適した植物を選ぶ。

自然環境を再現する  
造園技術により植物が淘汰を繰り返し、渾然一体と育つ環境をつくりだす。

#### 映える景をつくる 立体的な植栽

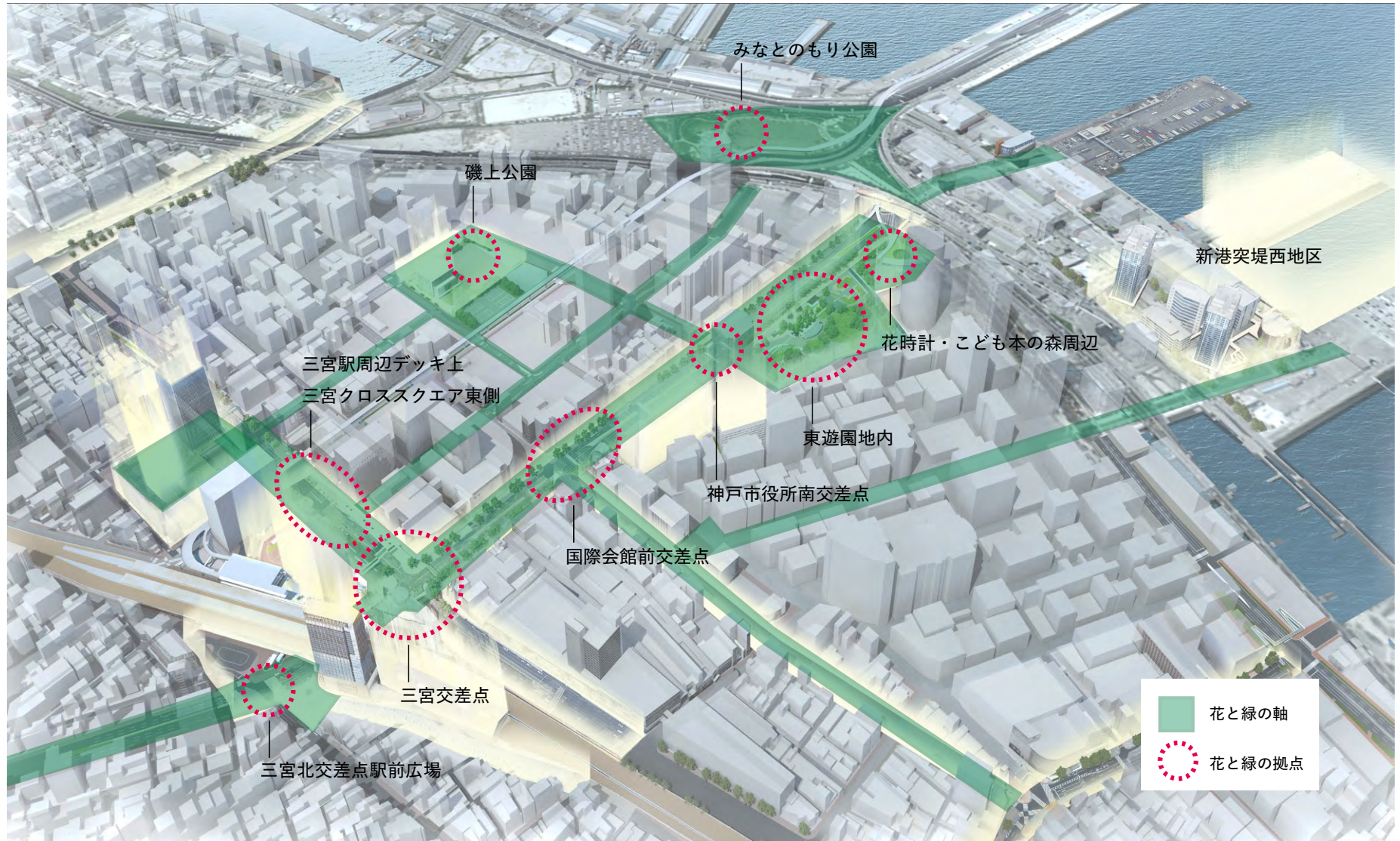
立体感のある植栽表現  
草丈の異なる植栽を組合せ、立体的なガーデンデザインを表現する。

植物の色合い・形状・素材感を活かす  
花や葉の異なる色や形、植物の葉・茎・花・種の質感の組み合わせによって、植物の立体的なリズムを生み出す。



### 都心・三宮の再整備における花と緑の展開

都心・三宮の再整備における「Living Nature Kobe」は、東遊園地を旗艦サイトとして中核に位置付け、「えき〜まち空間」や税関線、磯上公園等において取り組みを進めていきます。



# 夜間景観

三宮クロススクエア・税関線では、景観形成方針にある「にぎわいある上品な夜間景観の創出」を行います。既往の「神戸市夜間景観形成実施計画（都心・ウォーターフロントエリア）」や「まちのあかりのガイドライン（税関線沿道南地区）」に基づいて上品な夜間景観を形成するとともに、人が主役として映えるよう、人のアクティビティを照らし、楽しく歩けるにぎわいある街路景観を演出します。

## 基本事項

- 上品で居心地の良い空間を演出する夜間照明の具体化のために、「まちのあかりガイドライン」にて示す光の7つの原則に従って照明を配置・デザインします。
- 照明の種類に関わらず、温かみがあり賑わいの感じられる電球色（色温度3000K程度）での統一を基本とします。
- 夜間照明は安全で快適な夜間の屋外環境に欠かせませんが、過度な照明は上品さを損ないます。路面を照らす車道照明・歩道照明・フットライトは歩行者や車両の通行に必要な路面照度等をはじめ、明るさを効率よく確保するよう、照明の選択やピッチの設定を行います。

## 車道照明

- 三宮クロススクエアは神戸を象徴する上質で洗練された空間を演出するため、シンボル性のある車道照明を使用します。車道照明の柱自体が光を反射することで、光の柱が連続するリズムカルでシンボリックな夜間景観を演出します。
- 税関線は落ち着いた夜間景観を演出するため、車道照明は照明器具を主張せず景観に溶け込むものとします。

## 歩道照明

- 歩道照明は時間や季節による様々な演出や、「花」、「緑」、「彫刻」のライトアップ等による「光のミュージアム」として、上品な夜間景観を演出します。

## ▼ 光の7つの原則

- 1 鉛直面の輝度を重視する —— 少ないエネルギーで街に明るさ感を与える
- 2 グレアフリー —— 目に優しい景色をつくる
- 3 最適な色温度 —— 安らぎと緊張感を演出する
- 4 高い演色性 —— 人や緑を美しくみせる
- 5 快適な陰影 —— リズミカルな明るさを分布させる
- 6 オペレーション —— 刻々と変化する夜景を演出する
- 7 適正照度 —— 効率的に明るさを確保する

## ▼ 照明の配置・デザインイメージ



## エリア毎の夜間景観の考え方

### 三宮クロススクエア

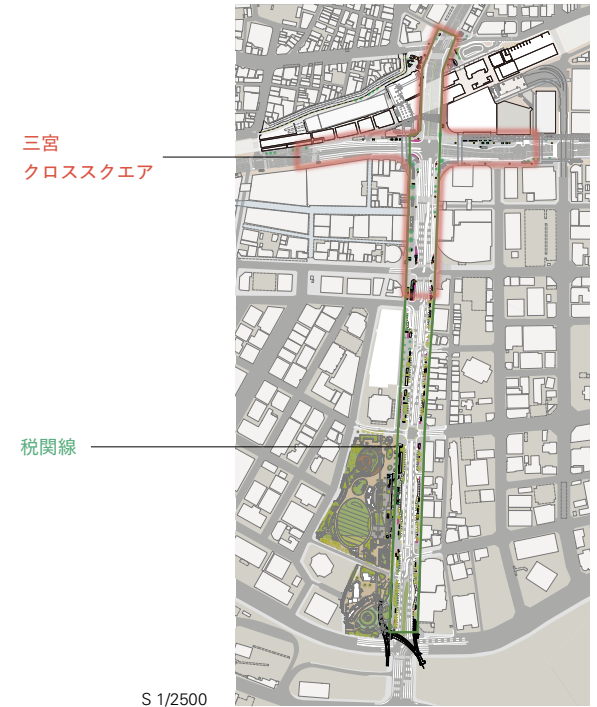
洗練された照明や沿道建築物から漏れ出る明かりにより、通りへのにぎわいの連続性を演出することで、神戸の玄関口にふさわしい上品な夜間景観を演出

- 人々が集まりやすい駅前の広場空間を照明灯に加え、ベンチ等のフットライト、植栽帯や水景施設へのライトアップなど、様々な照明を組み合わせることで、にぎわいのある夜間景観を演出します。
- シンボル性の高い照明の連続により印象的な夜間景観を演出します。

### 税関線

フラワーロードのシンボルである「花」「緑」「彫刻」を活かし、ライトアップなどによる「光のミュージアム」をテーマとした道路空間の創出および軸性の演出や回遊性の向上

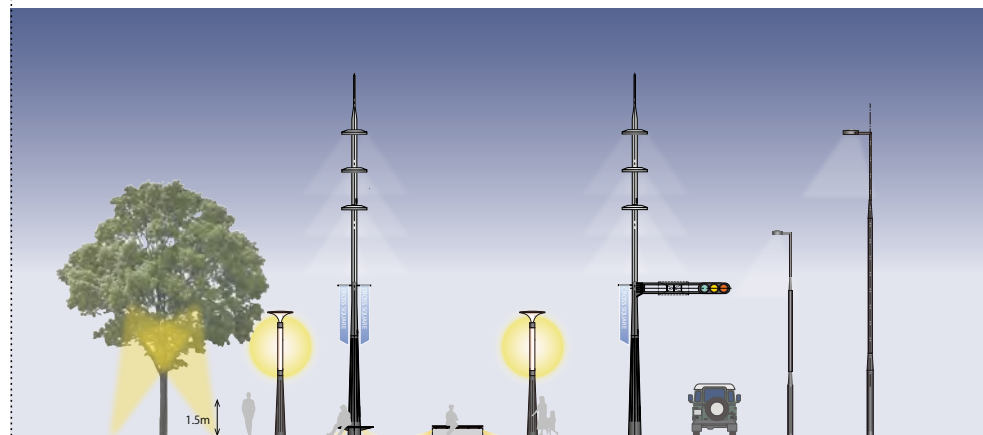
- ベンチのフットライトや地下出入口上屋等の地上工作物を利用したライトアップにより道行く人々の足元をさりげなく照らし、上品に彩ります。
- ウォーターフロントや海岸通りへのアプローチを演出します。



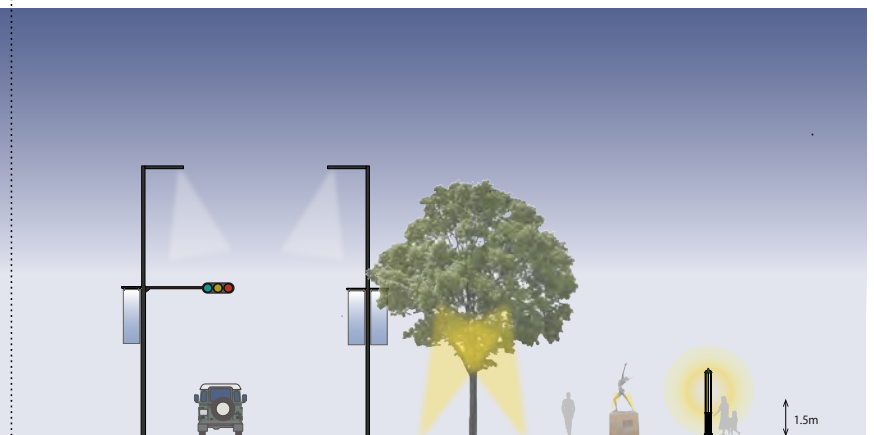
S 1/2500

### ▼ 照明の連続立面図

#### 三宮クロススクエア



#### 税関線



SCALE 1/300

# 異常高温対策

近年、「これまでに経験したことのないような」異常高温が発生し続けており、屋外公共空間においても、異常高温対策の取り組みを強化してきました。人が集中する三宮都心部においても、効果的な異常高温対策を組合せ、重点的に実施します。

モノの温度を抑制する  
(地表面の温度抑制)

- 温度上昇を抑える舗装材の使用  
(色彩、雨水貯留、保水)
- 木陰、緑陰空間の増加

夏季に涼しさを感じる  
居心地の良い空間へ  
(体感温度の抑制)

- クールスポットの導入  
(ミスト、水盤、せせらぎ等)

▶ 雨水貯留浸透基盤の整備イメージ  
※東遊園地内で試験的に実施した後、三宮クロススクエアや税関線で実施を検討  
図：(一社)グリーンインフラ総研



▶ 緑陰空間のイメージ



▲ クールスポットのイメージ



# 防災

不測の災害に対しても対応可能な、しなやかで強いまちを目指します。

「三宮駅周辺地域都市再生安全確保計画」を踏まえ、不測の災害時に来街者等が混乱なく安全・安心に過ごせるように官民が連携したハード・ソフト両面での取り組みを進めます。ハード面では「三宮クロススクエア」をはじめとする屋外の公共空間や「雲井通5丁目再開発ビル」をはじめとする建築物の内部空間において、来街者等の安全を確保するための施設整備を進めるとともに、ソフト面においては、共助による帰宅困難者対策のための即時性のある情報連携の仕組みづくり等を進めます。

一時退避場所 災害時に滞在者等がすぐに退避できる、あるいは一時滞在施設開設までの数時間を安全に過ごすことができる広場やオープンスペース等の退避空間の確保

一時滞在施設 公共空通機関の運行停止などにより徒歩で帰宅不能な帰宅困難者を最大3日程度収容する安全・安心な空間を創出

備蓄倉庫 一時滞在施設をはじめ、地域内施設における帰宅困難者向け備蓄施設の確保

退避経路 災害時は救援活動等避けながら一時退避場所や一時滞在施設へ移動可能な退避経路としても利用できる広い幅員のゆとりある歩行者空間の確保

その他の施設等

- ・ 発災直後、迅速・的確に災害情報や公共交通機関の運行状況、一時退避場所・一時滞在施設の情報を提供できる設備の確保（ユニバーサルデザインの視点やインバウンド対応、多言語対応を前提とした情報通信施設の整備）
- ・ 新たな中・長距離バスターミナルを帰宅困難者の代替輸送に活用

▼ 退避経路: 葦合南54号線



▶ デジタルサイネージ



▼ バスによる  
帰宅困難者の輸送



# 感染症に強いまちづくり

新型コロナウイルス感染症の影響により新たな生活様式が推奨される中、換気の良い屋外空間の利活用の重要性がより高まっています。また、広場をはじめとする屋外空間では来訪者の数による評価だけではなく、三密を避けた日常の使い方に対する価値観が高まり、「居心地の良さ」がこれまで以上に重視されています。このような状況を踏まえ、都心・三宮の再整備では、まちづくりのマクロな視点として、道路や広場空間と沿道建築物が一体となった風通しの良い広く豊かな屋外空間を創出するとともに、それらをつなぐウォークラブルな空間の整備などにより魅力的な屋外空間のネットワークを形成します。

さらに、屋外空間の整備にあたっては、身体的距離の確保や混雑度の可視化など、新しい技術や制度を活用した感染症対策を行いながら、人が主役の居心地の良い空間を創出することにより「感染症に強いまちづくり」を目指します。

さんきたアモーレ広場



サンキタ通り



三宮プラッツ



三宮クロススクエア東側



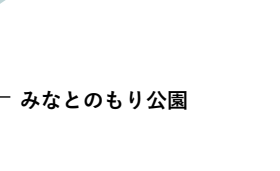
三宮クロススクエア南側



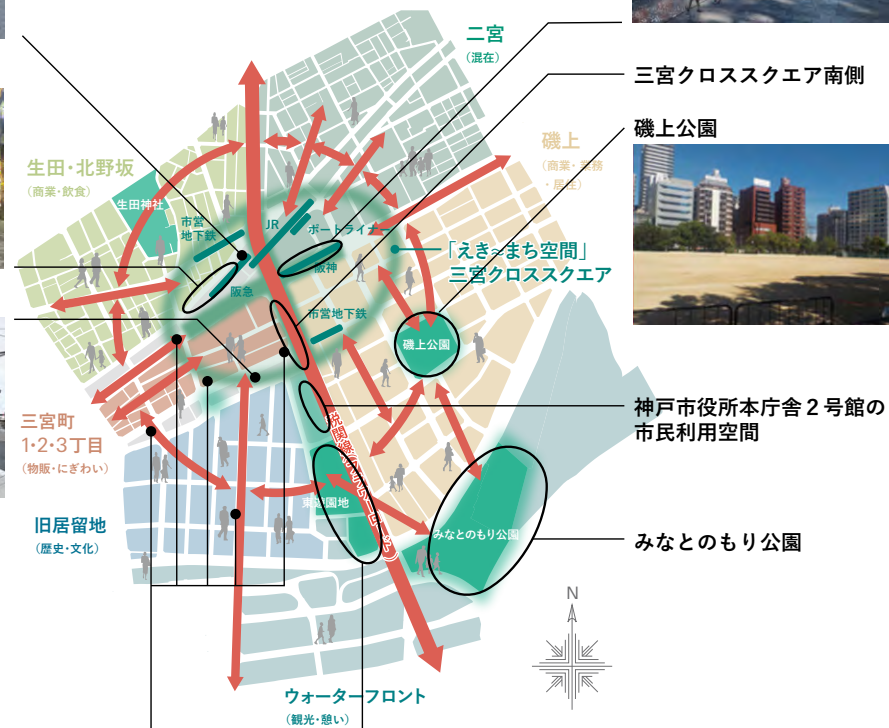
磯上公園



神戸市役所本庁舎2号館の市民利用空間



みなとのもり公園



KOBEパークレット



東遊園地 (公園)



## 具体的な対策例

- 沿道建築物と一体となった空間の整備
- 開放的な自然を感じる空間の確保
- フレキシブルな空間の利活用
- パーソナルスペースを大切にした空間の整備
- データ・新技術等を活用した情報発信・啓発等

公共空間と沿道建築物が一体となったシームレスな設えにするとともに、道路占用の許可基準の緩和制度を活用



可動式ファニチャー等の設置が可能な、様々な形態に対応できる空間の創出



日常的にくつろげ、また多様なプログラムやイベントに対応できる芝生広場の創出



デジタルサイネージを活用した安全・安心情報の発信



# 三宮クロススクエアのデザイン

## 現況の課題

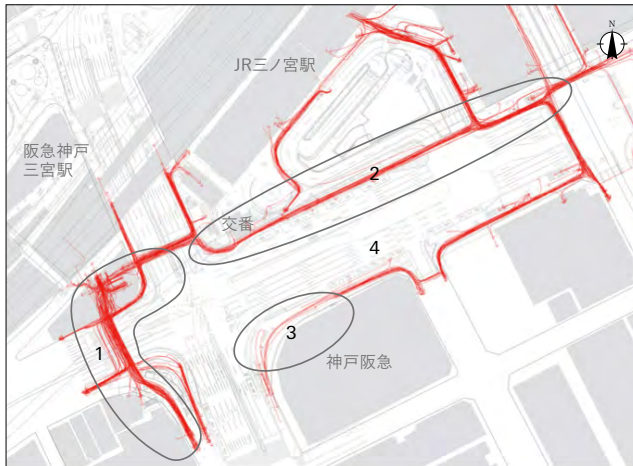
駅前空間においては、その立地性から多くの歩行者が行き交い、人が集まりやすい場所であるにもかかわらず、下記のような課題があります。

- ・ 乗り換え動線がわかりにくい
- ・ 駅から周辺のまちへのつながりが弱い
- ・ 駅前広場の交通結節機能が弱い
- ・ 広場などの人のための空間が少ない
- ・ 玄関口にふさわしい特色ある景観がない等



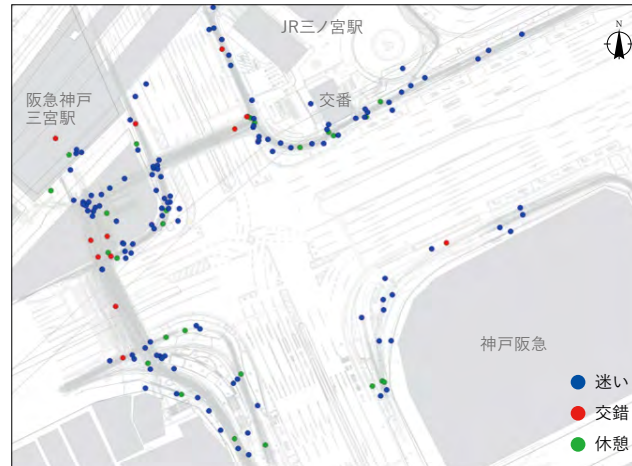
▲ 三宮交差点（北東からのぞむ）

## 歩行者追跡調査結果\*（抜粋）



▲ 歩行者の移動経路

- 1 多くの歩行者が、このL字の横断動線に極端に集中
- 2 狭い東西動線
- 3 動線的なつながりが弱く、やや孤立した場所
- 4 道路による北側と南側の分断感



▲ 歩行途中の立ち止まり行動（調査データから抜粋）

- ・ 駅周辺の動線がわかりにくいいため、見渡す、案内板を見る、道を尋ねるなどの迷い行動が見られる。
- ・ 歩行者空間が狭いため、他の歩行者、自転車との交錯が見られる。
- ・ 人のための広場空間が少ないため、小休憩や荷物等の整理を歩道上で行っている。

\* 三宮クロススクエアのデザイン検討にあたり、歩行者の移動行動や歩行途中の立ち止まり行動等の観察調査を実施しました。（附録参照）

「えき～まち空間」の目標像 【神戸三宮「えき～まち空間」基本計画 抜粋】

三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間

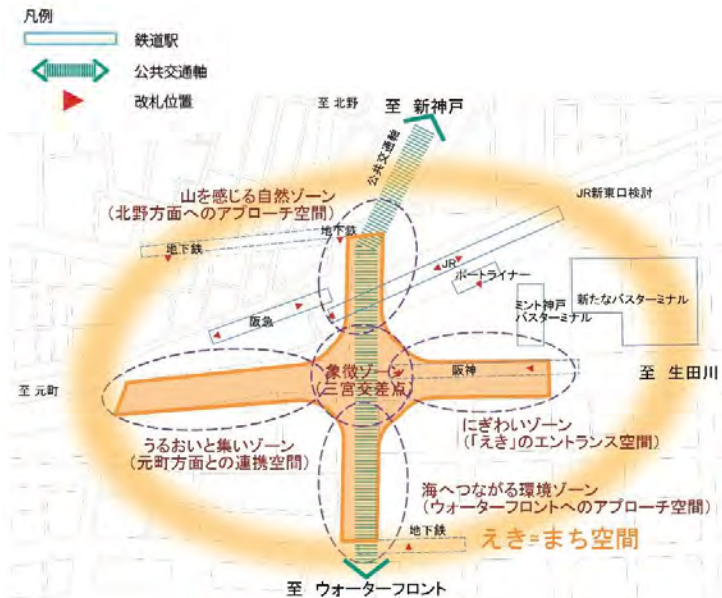
- 6つの駅（JR、阪急、阪神、地下鉄西神・山手線、地下鉄海岸線、ポートライナー）の各駅の改札口からの乗換動線を分かりやすく、移動しやすくするとともに、新たなバスターミナルや駅前広場を整備することで、バス乗降場を集約し分かりやすさを向上させます。
- 6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となることで、移動経路沿いの店舗やサービス施設等にもぎわいが生まれ、神戸の玄関口にふさわしい活動や交流が生み出されることが期待できます。

「えき」と「まち」が行き来しやすく、より便利で回遊性を高める空間

- 「えき」と「まち」とをつなぐ役割として、「えき～まち空間」の核となる人と公共交通優先の空間「三宮クロススクエア」を創出します。
- 「三宮クロススクエア」は、山と海をつなぐ南北軸（フラワーロード）と、三宮と元町をつなぐ中央幹線や鉄道との結節点であり、この結節空間の整備によって、6つの駅の分かりやすさを高めるだけでなく、「えき」から「まち」への、「まち」から「えき」への地上レベルのアクセスを強化します。

美しき港町・神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間

- 新たに整備される駅前広場や新たなバスターミナルは、神戸の玄関口として「まち」との交通結節機能の役割を果たします。
- 「三宮クロススクエア」と三宮交差点を囲む4つの街区の民間開発が、互いに向き合うデザインとすることで、神戸の玄関口にふさわしい空間を創出します。

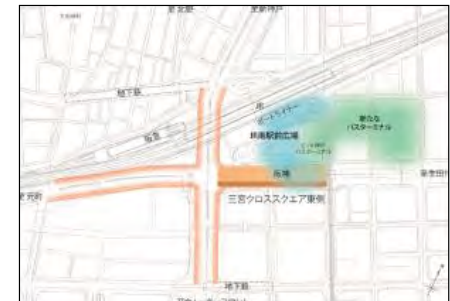


▶三宮クロススクエアの段階整備

フェーズⅠ



フェーズⅠ



将来形



## 三宮クロススクエアの段階整備

「三宮クロススクエア」の実現は段階的に進めていくこととしており、まずは、三宮交差点の東側から整備を行います。

### 第1段階 2029年度目標 (JR新駅ビル開業 と同時期)

- 第1段階では、車道を10車線から6車線に減少し、人のための豊かな屋外空間を創出します。広がった広場空間では、公共空間と沿道建築物が一体となったにぎわいのある空間となります。また、自転車走行空間を設け、自転車と歩行者が安全に共存できるようにします。
- JR 三ノ宮新駅ビルにあわせて、乗り換え動線や駅とまちとのつながりを強化するなど、神戸の玄関口として大きく変わるフェーズとなります。



### 第2段階 大阪湾岸道路 西伸部供用後

- 第2段階では、車道を3車線に減少し、さらに広い広場空間を創出します。より多様な使い方に対応できる、居心地がよくにぎわいのある空間となります。
- 第2段階以降は、将来の社会情勢の変化（自動運転・AI等の技術革新、公共交通への転換、人口増減等）を見極めながら検討していきます。



## 自転車走行空間の整備の必要性

### 1 交通安全の確保

- 中央幹線は自転車交通量が多い（中央幹線：約1,500台/24h）  
※自転車の「交通量が多い」場合とは、対自動車、対歩行者ともに事故が多い傾向にある500台/日以上を目安とする。（道路構造令の解説より抜粋）
- コロナ禍で増加した自転車需要への対応が必要

### 2 ウォーカブルなまちづくり、 都市の魅力向上と回遊性の向上

- 歩行者と自転車を空間的に分離することで、歩行者の安全性向上、にぎわいの創出を目指す

### 3 将来のモビリティ空間 としての活用

- キックボード等の次世代モビリティの空間として活用



中央幹線で実施される道路空間の再編に併せて、歩行者と自転車の通行空間を分離し、自転車走行空間の確保を目指す。

### 三宮クロススクエアのデザインコンセプト

美しき港町・神戸の玄関口として、  
常に新しいヒト・モノ・コトとの出会いがある、  
人が主役の居心地の良い広場空間

- ・都市と自然が調和した上質なまちなみを背景に、神戸らしさを五感で感じる  
ことのできる居心地の良い空間
- ・多種多様な人々が集い、様々な活動や交流が行われ、進取の気性を受け継ぎ  
ながら、新たな神戸らしさを醸成し発信する空間
- ・神戸に来たというワクワク感を感じるとともに、周辺の「まち」へ移動した  
くなるような空間



### 整備の考え方

- ・公共空間と沿道建築物の一体的な空間形成によるにぎわいと回遊性の創出
- ・神戸の玄関口にふさわしい高質な素材と洗練されたデザインの採用
- ・エリアマネジメントによるにぎわい利用を想定した、多様なアクティビティに対応可能な空間構成
- ・歩行者空間と自転車走行空間の分離による安全・快適でウォークアブルな空間創出
- ・異常高温対策の導入による快適で持続可能性の高い空間の実現
- ・帰宅困難者の滞留機能など高い防災性能を有した空間の実現
- ・感染症に強く、新たな生活様式に対応したフレキシビリティのある空間構成とファニチャー配置

# 三宮クロススクエア——三宮交差点

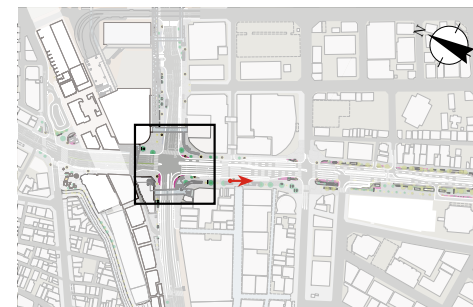


民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

▼ KEYPLAN

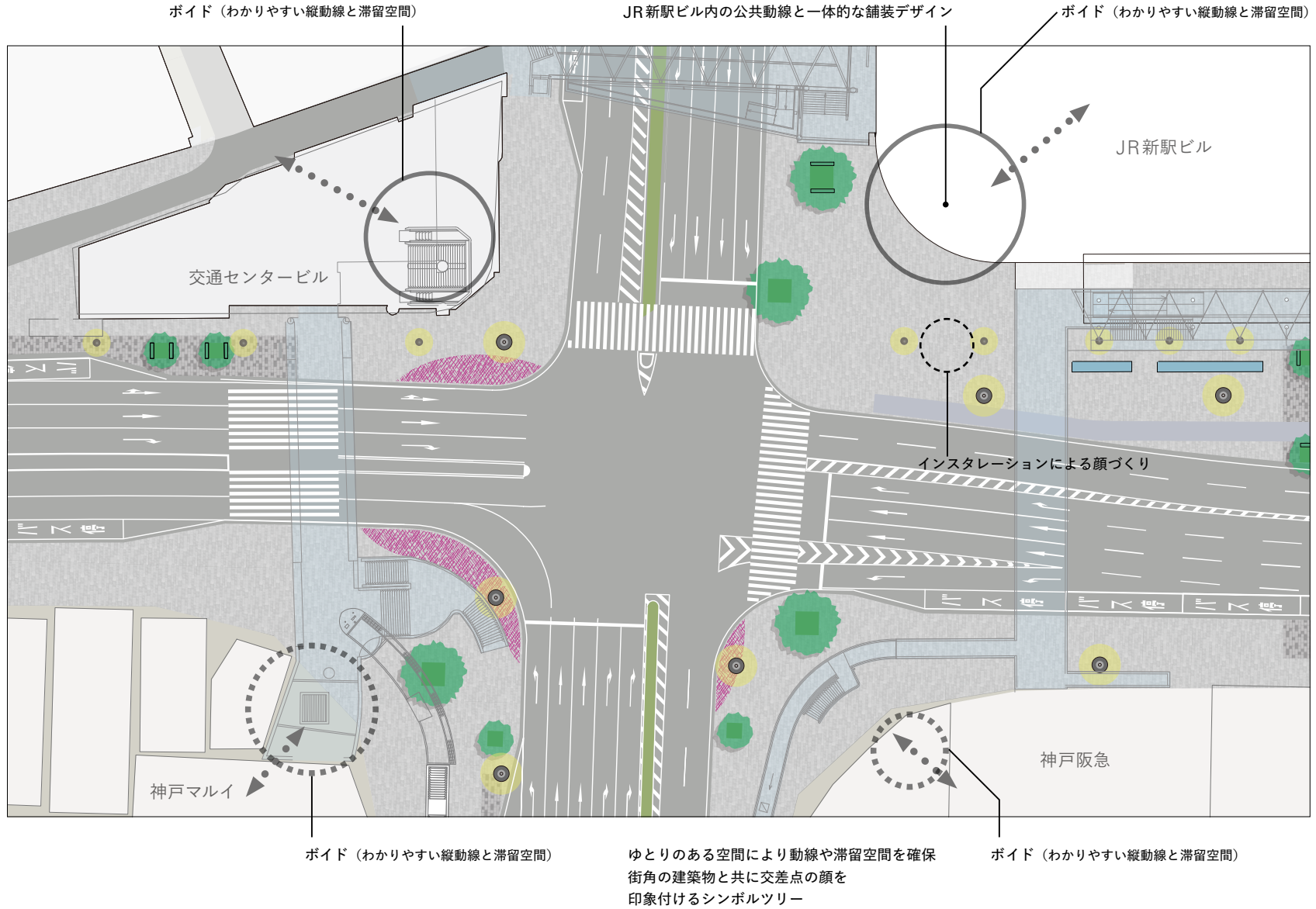
神戸の玄関口“三宮”を印象付ける  
神戸の「顔」にふさわしい象徴となる空間

- 1 公共空間と沿道建築物が一体となり上質で洗練された空間を創出します。
- 2 「えき」から「まち」への見通しを高め、  
自然とまちへ誘われる分かりやすい公共動線を確保します。





▶ 平面図  
(第1段階)



SCALE 1/750



# 三宮クロススクエア — 東エリア

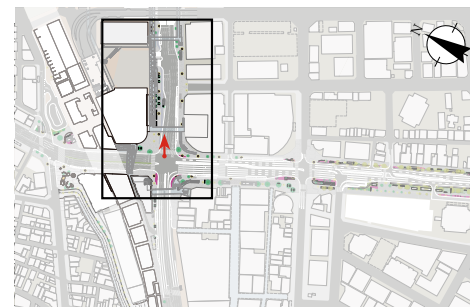


民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

## 交通結節機能とにぎわい空間が融合した 神戸三宮の「まち」へのエントランス空間

- 1 公共空間と沿道建物を一体的にデザインし、まちのにぎわいを相互に生み出す空間を創出します。
- 2 花・緑や水景のある居心地の良い空間を設え、  
様々なアクティビティが展開できるにぎわいと憩いの場とします。
- 3 新たなバスターミナルやJR新駅ビルに合わせて歩行者デッキや広く豊かな広場空間を  
整備することで、都市のにぎわいと魅力が備わる新しい駅前の風景を創出します。

▼ KEYPLAN



▶ 平面図 (第1段階)

JR新駅ビル内の公共動線と  
一体的な舗装デザイン

ポイド  
(わかりやすい縦動線と滞留空間)

沿道建築物との一体的なぎわい

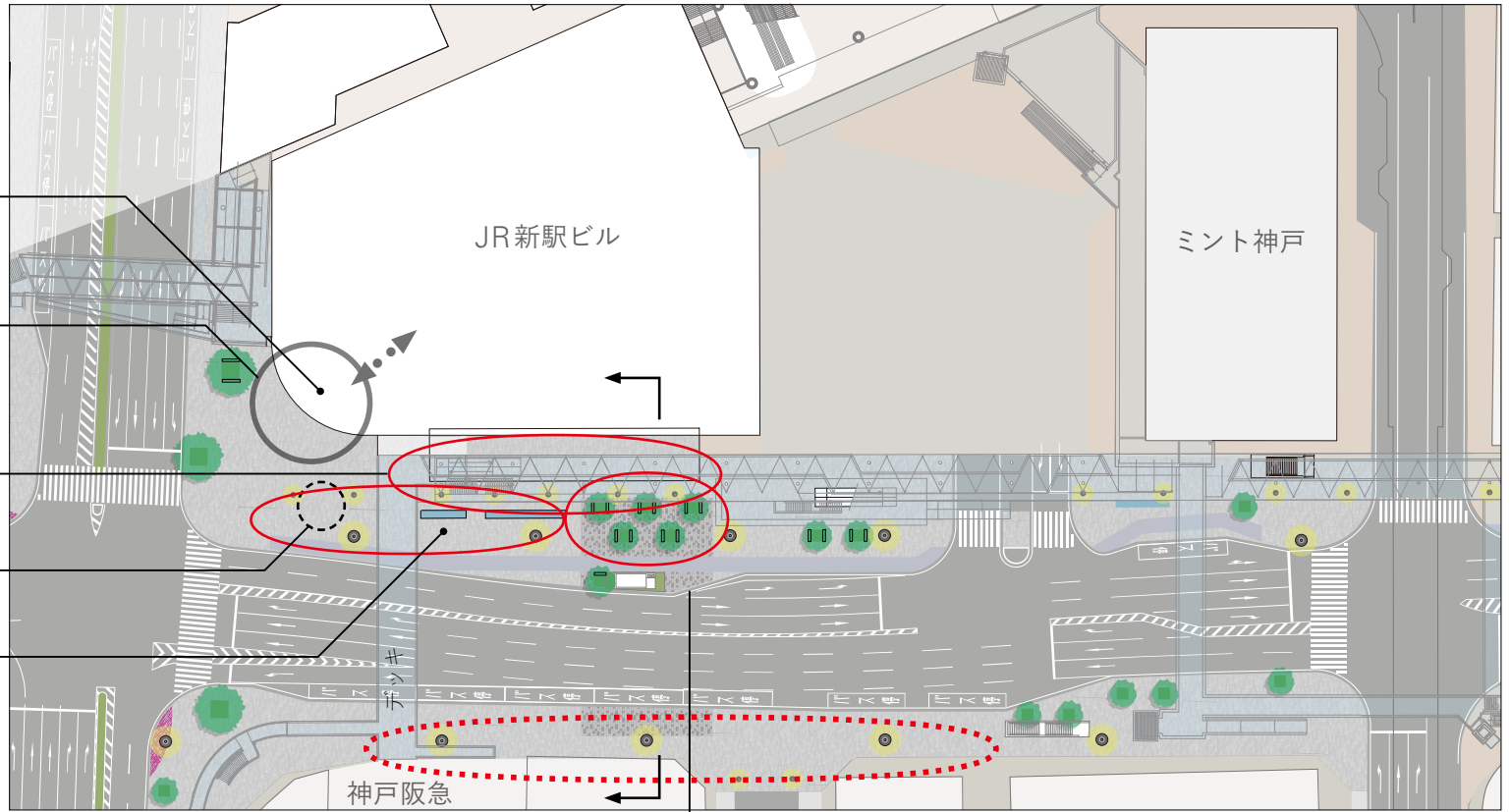
インスタレーション  
による顔づくり

フレキシブルに使える空間を確保  
(水盤の水をおとして使用)

SCALE 1/1250



0m 5m 10m

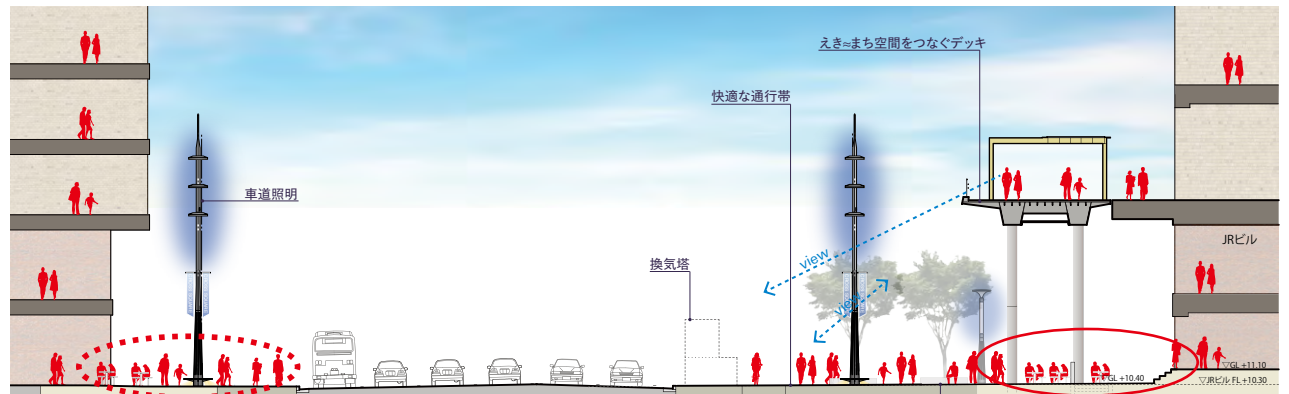


緑陰の確保と保水性舗装により、居心地の良い滞留空間の創出

▶ 断面図

SCALE 1/400

0m 5m 10m



沿道建築物との一体的なぎわい

小さなたまりをつくる  
緑陰とベンチ

沿道建築物との一体的なぎわい

イメージパース（第2段階）



民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

▶ 平面図 (第2段階)

ポイド  
(わかりやすい縦動線と滞留空間)

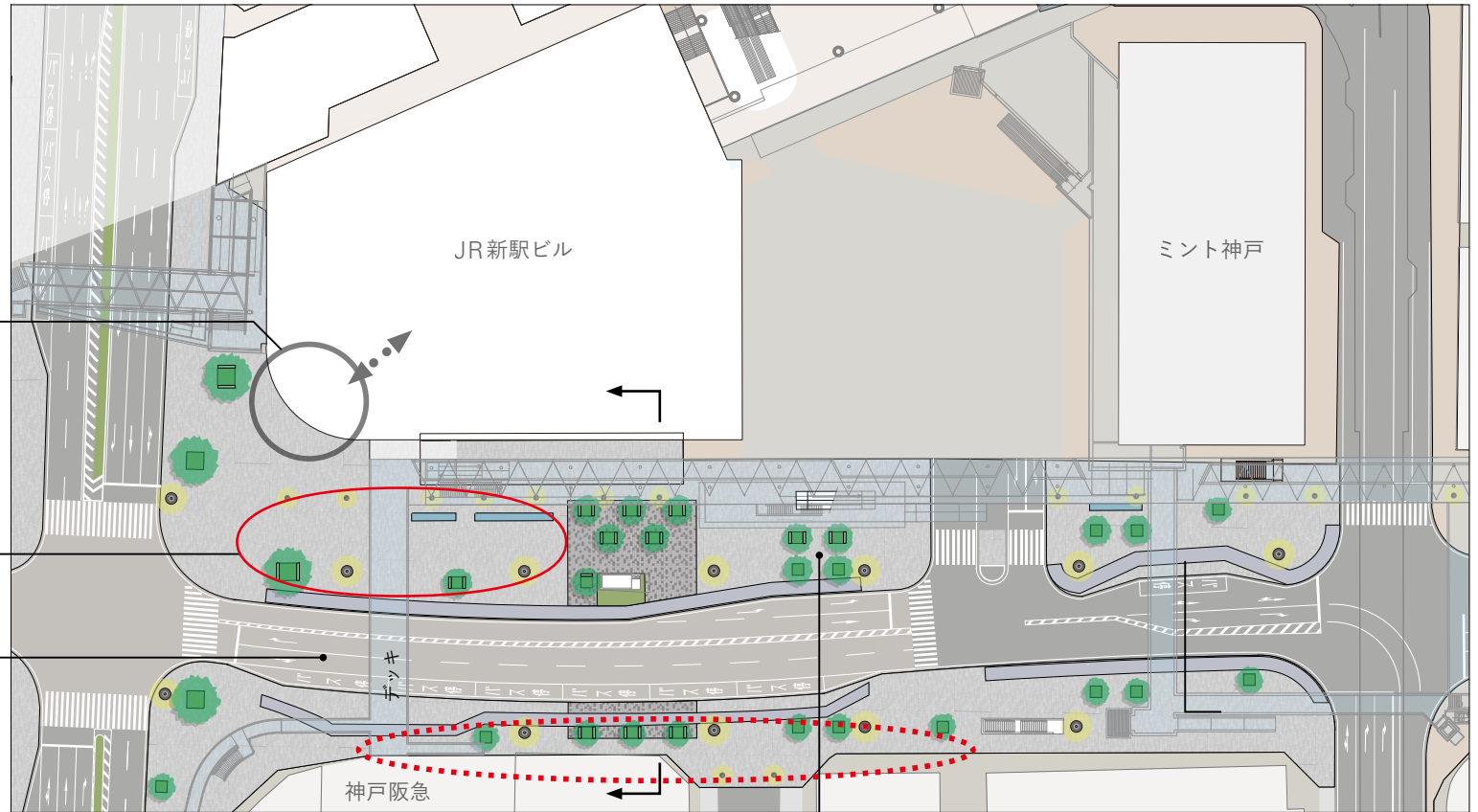
より多様な使い方ができる広場へ

南北の分断感を軽減し  
より一体的な広場空間へ

SCALE 1/1250



0m 20m 40m

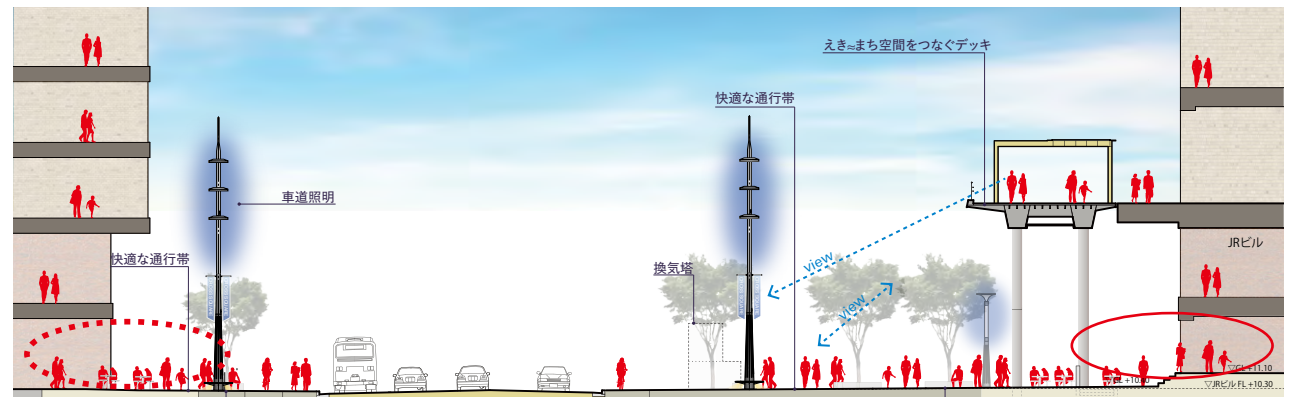


車線減少に伴って広がる広場空間

▶ 断面図

S1/400

0m 5m 10m

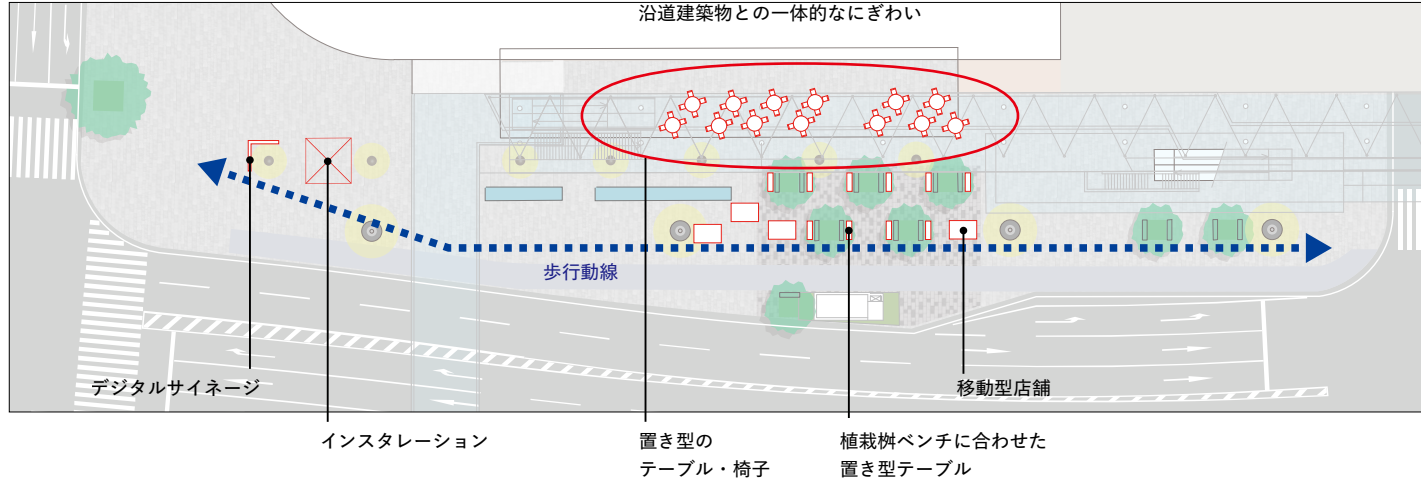


沿道建築物との一体的なにぎわい

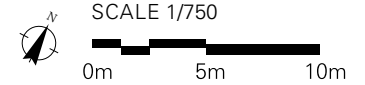
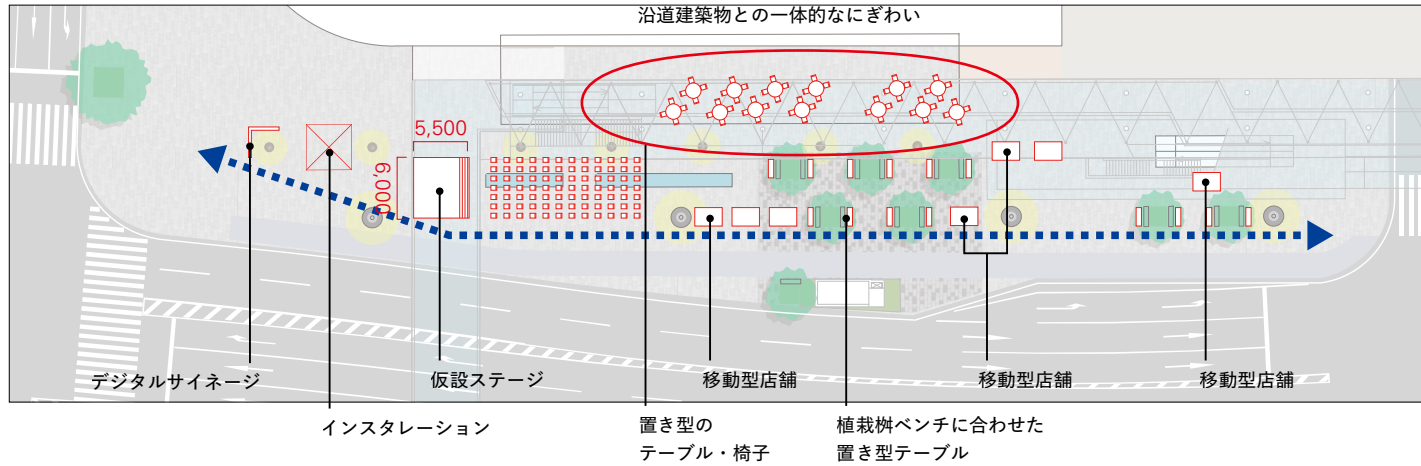
沿道建築物との一体的なにぎわい

広場の活用例  
第1段階

▶ 日常



▶ 中〜大規模イベント時



利活用イメージ——第1段階（大規模イベント時）



民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

# 三宮クロススクエア —— 北エリア

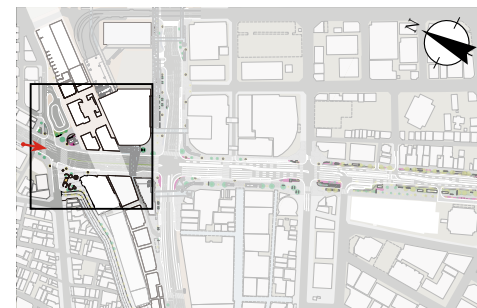


民間建築物等はイメージであり、今後変更となる場合があります。

六甲山を身近に感じるとともに、  
北の玄関口として人の流れを呼び込むにぎわいある空間を形成

- 1 さんきたアモーレ広場を核として、待ち合わせ・休憩の場、新たな交流の場、文化の創造や発信など実験的に様々なチャレンジができる場を創出します。
- 2 高質なデザインによる歩行者中心の公共空間と沿道の店舗が一体となったにぎわいを創出し、周辺エリアへの広がり拡がりを促します。
- 3 神戸有数の繁華街であるエリアの特性を生かし、ナイトタイムエコノミーやナイトカルチャーの起点となる場とします。

▼ KEYPLAN



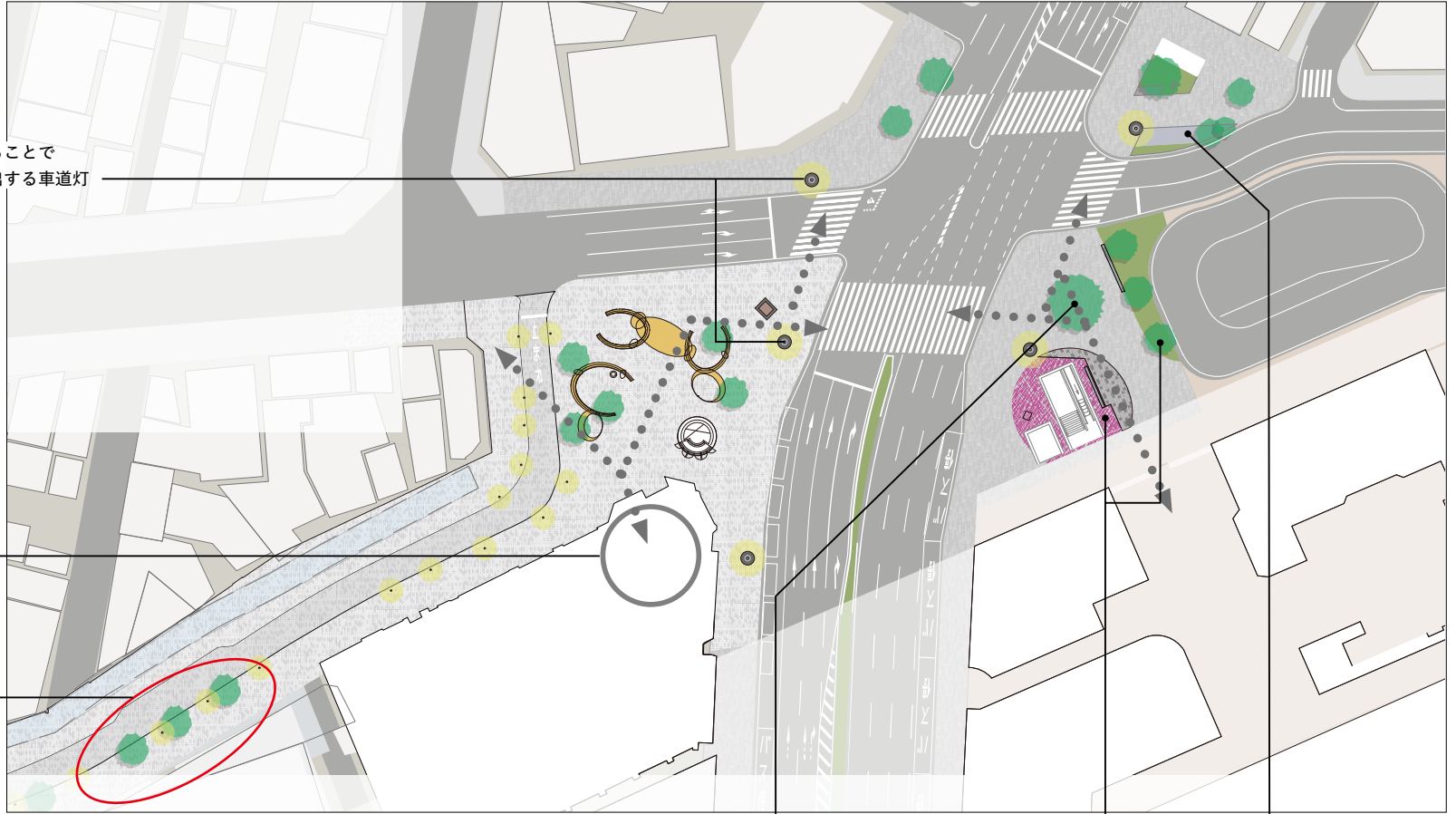


▶ 平面図

交差点を囲むように配置することで  
ゲート性、シンボル性を創出する車道灯

ポイド  
(わかりやすい縦動線  
と滞留空間)

公共空間と沿道建築物が  
一体となった空間の創出



SCALE 1/1000



駅構内を出たときの  
アイキャッチとなり、北の玄関口の  
顔ともなるシンボルツリー

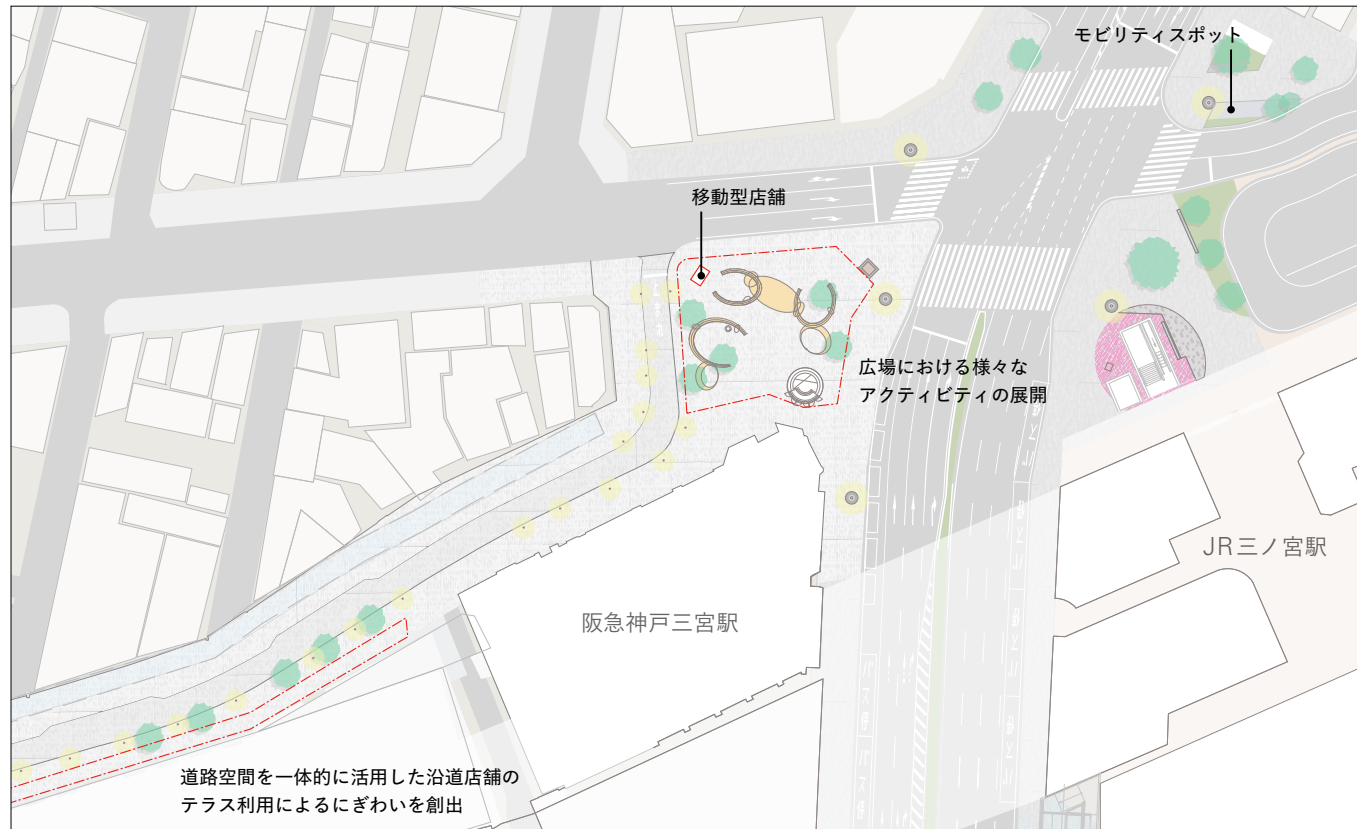
駅やまちからの  
人を迎え入れる花壇

回遊拠点となる  
モビリティスポットの整備

- ▶ 左：公共空間と沿道建築物が  
一体となった空間の創出
- ▶ 中央：北の玄関口となるエリア
- ▶ 右：六甲山を望む、  
北野方面へのアプローチ空間



空間の利活用イメージ



SCALE 1/600

0m 10m 20m



▲ ボリウッドダンス



▲ 音楽ライブ



▲ ヨガ



▲ 移動型店舗



▲ 新聞アート・ダンス



▲ ライブペインティング

## さんきたアモーレ広場・サンキタ通りの再整備

神戸三宮阪急ビルの開業に合わせ、さんきたアモーレ広場とサンキタ通りを一体的に再整備することで、にぎわいのある魅力的な空間が生まれました。さんきたアモーレ広場については、デザインコンペを実施し、選ばれたデザインを基に広場のリニューアルを行いました。また、サンキタ通りについては、民地と歩道、車道を段差の無い一体的な舗装とし、貨物車のみ日中に限り進入可とすることで、歩行者中心の道路へと再整備を行いました。



▲ モニュメントのライトアップ

▲ 新たな広場でくつろぎ、待ち合わせする人々

▲ 沿道店舗のにぎわいが滲み出す道路空間へ

▲ 実物大モックによる照明配置実験

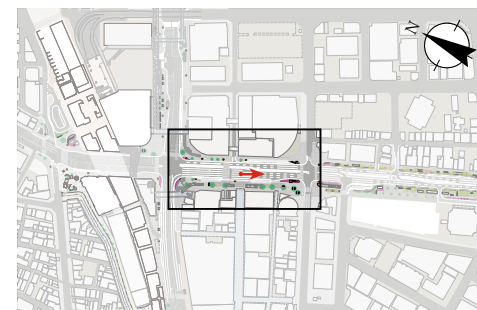
# 三宮クロススクエア — 南エリア



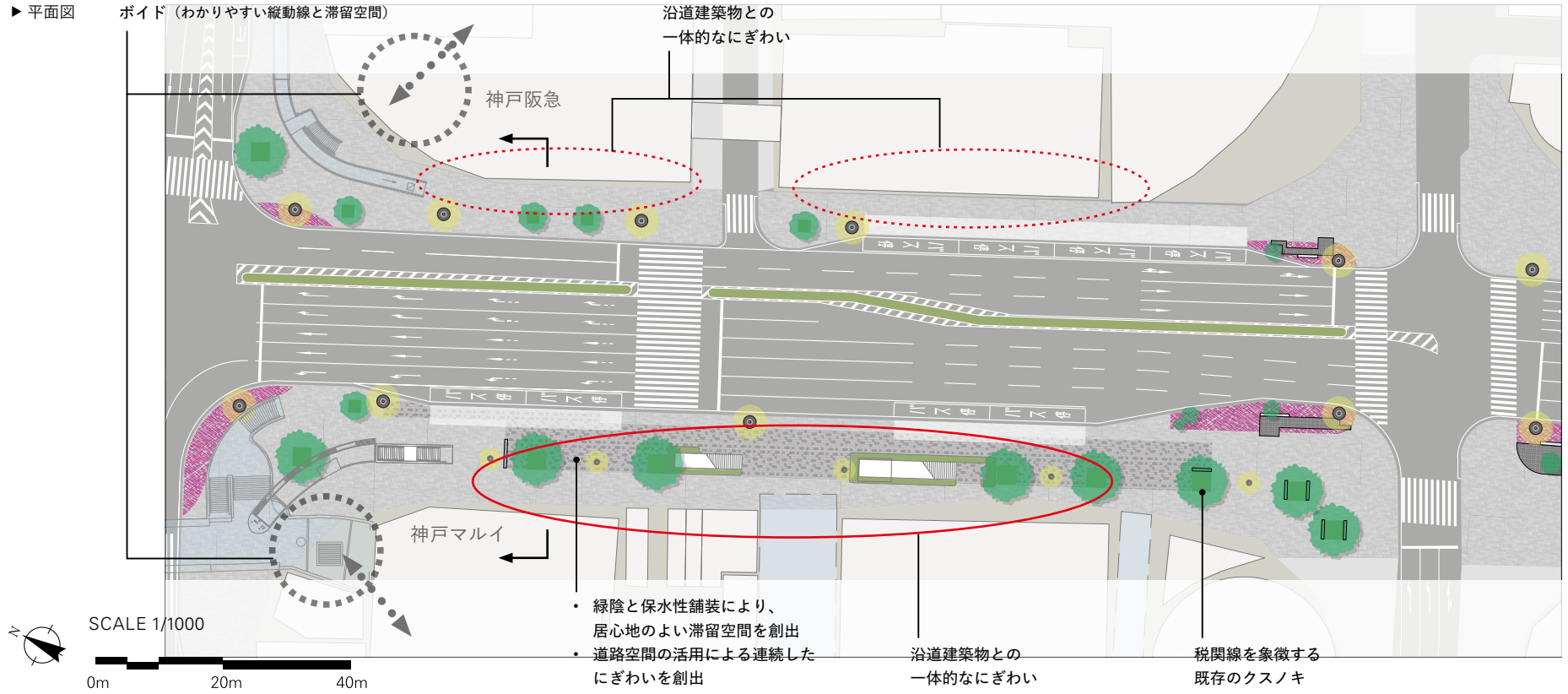
## 周辺のまちや、海へつながる回遊の起点となる「みち広場」

- 1 クスノキの列植をはじめとする豊かな緑に彩られた、うるおいのあるプロムナードを形成します。
- 2 大型商業施設や三宮センター街等による人の流れが絶えない商業施設の集積地であり、日常的なにぎわいと憩いの空間を創出し、周辺のまちへの回遊の起点となります。

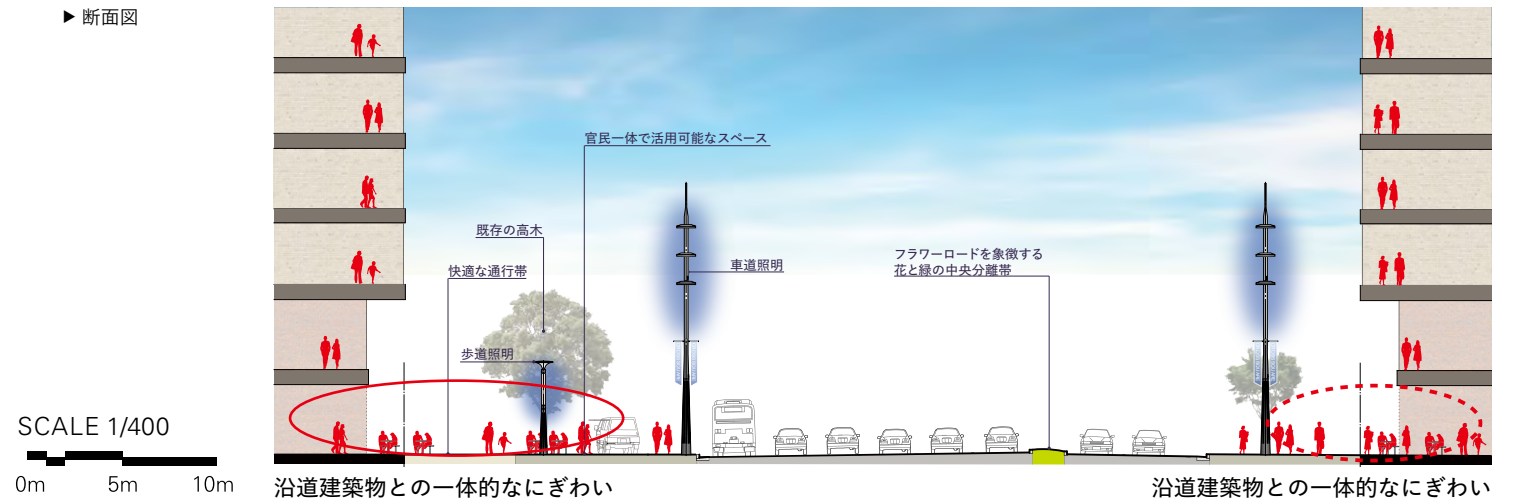
▼ KEYPLAN



▶ 平面図



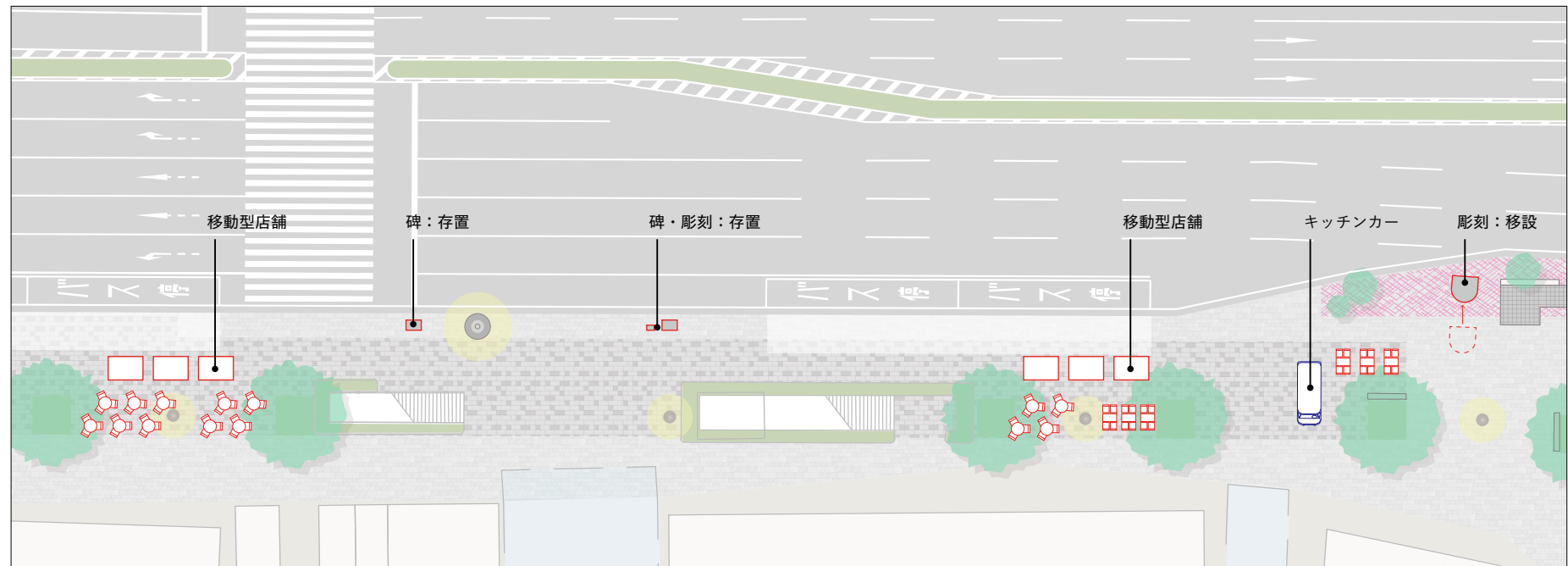
▶ 断面図



### 空間の利活用イメージ

- 三宮クロススクエアと税関線が重なる当エリアでは、既存樹木を活かした並木や川の流を表現する舗装により、海と山をつなぐシンボルロードとしてのデザインを施します。
- 特に広幅員の歩行空間が確保できる西側の歩道では、断面を動線空間と滞留空間に区切り、様々なアクティビティや交流の創出を図ります。

▶ キッチンカーイベントなどによる道路空間の利活用 (R1~R3社会実験として実施)



0m 10m 20m SCALE 1/500



▲ 既存樹木を活かした心地よい木陰とベンチ



▲ 活用スペースと通行帯が快適に分けられた歩道



▲ 官民一体で活用可能なスペース

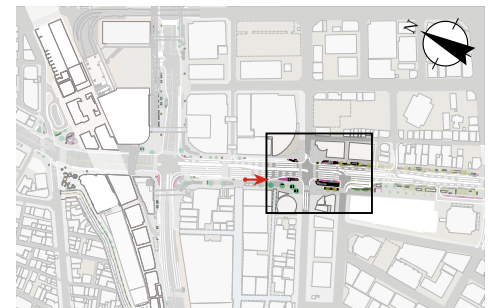
# 三宮クロススクエア 国際会館前交差点



## 花と緑でうるおい、「まち」と「まち」がであり結節点

- 1 駅からの人の流れを受け止め、人々が滞留できる空間を創出するとともに、ウォーターフロントや周辺のまちへの回遊を促す空間とします。
- 2 周辺のまちへの結節点となる街角は、国際会館・本庁舎2号館等の沿道建築物と一体となったにぎわいを創出し、四季を感じる花や緑で彩ります。

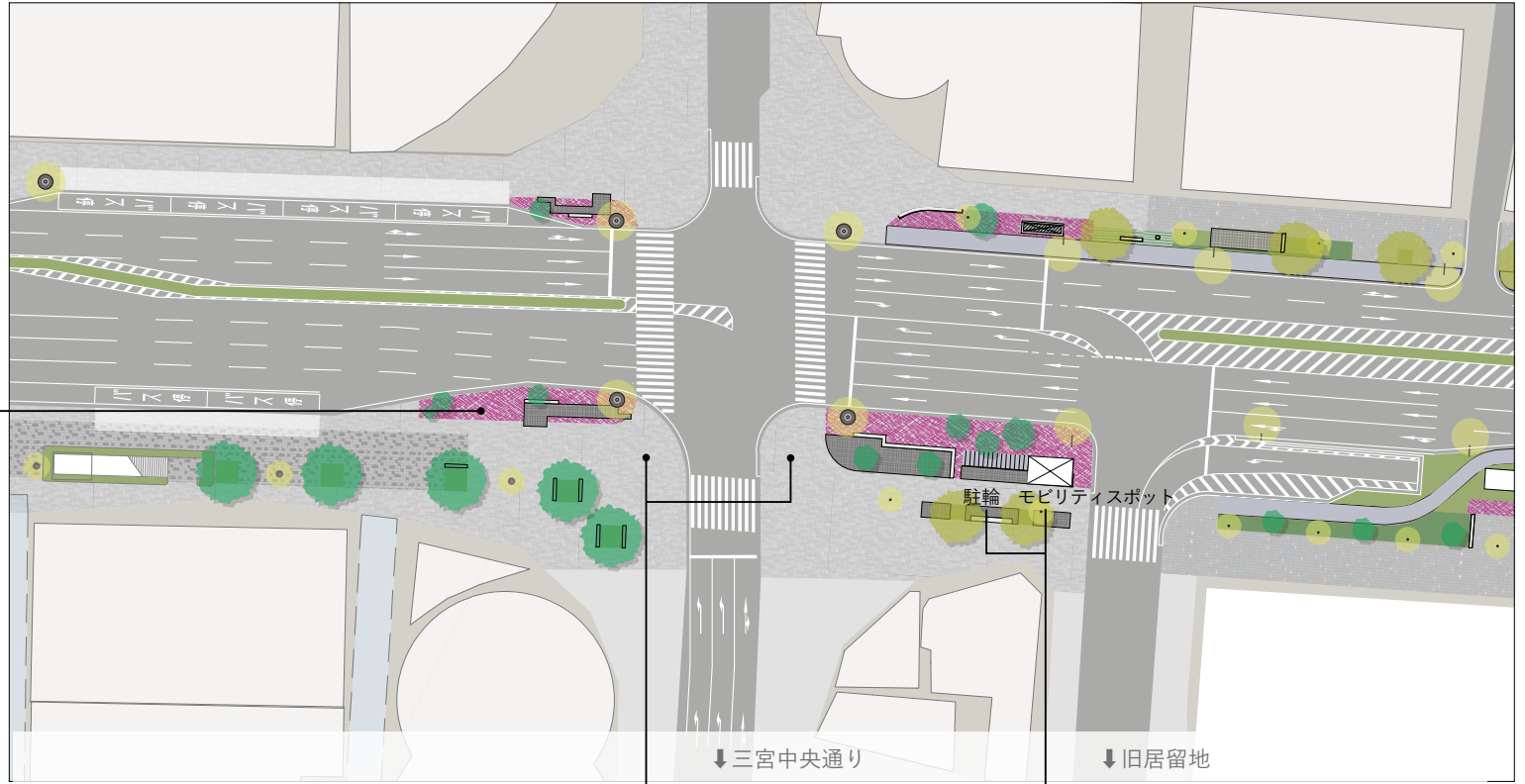
▼ KEYPLAN





▶ 平面図

花・緑と一体となった  
滞留スペースの設置



SCALE 1/1000



花と車道照明、舗装材の  
統一による一体感の演出

三宮中央通りへのつながりを  
予感させる入口づくり

周辺のまちへの回遊を促す  
モビリティスポットの設置

▼ ベンチ+花壇デザイン



▼ ベンチ+花壇デザイン



▼ 給気塔デザイン



三宮クロススクエアでは神戸の玄関口にふさわしい上質で洗練されたデザインを採用します。公共空間を構成する主要な用途である舗装やストリートファニチャーを例に、デザインのディテールを示します。

## 舗装

**主要部舗装**

- ・神戸の玄関口にふさわしい特別感を演出する自然石舗装。
- ・大判の石材を使用することでゆったりとした落ち着いた趣を演出。

**滞留空間舗装**

- ・保水性舗装（貯留砕石路盤とあわせて整備）を用いることで、気温の低減効果による居心地よい空間形成を図る。張りパターンにも変化をつけることで、滞留を表現。

## ベンチ

- ・車道照明のベンチと素材を揃えたアルミ鋳物を用います。鋳物ならではの波型テクスチャーを施すことで、断熱効果、また汚れの軽減効果を持たせます。
- ・ベースはホワイトセメントの塊とし、そこから翼をイメージするような軽快なフォルムの座面を立ち上げ、座りたくなる印象をつくります。座った時の安心感、足の置きやすさ、ベースの汚れにくさに配慮したデザインとします。
- ・通過動線となる通路を明るくするため、両側面にフットライトを設けて地面を優しく照らします。

### ▶ 主要部舗装

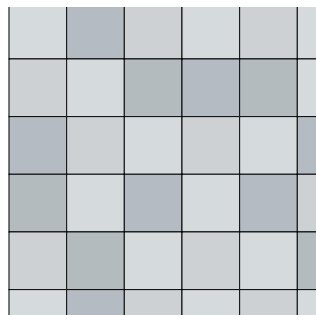


### ◀ 御影石

▼ (例) 出雲市神門通り



### ▶ 滞留空間舗装

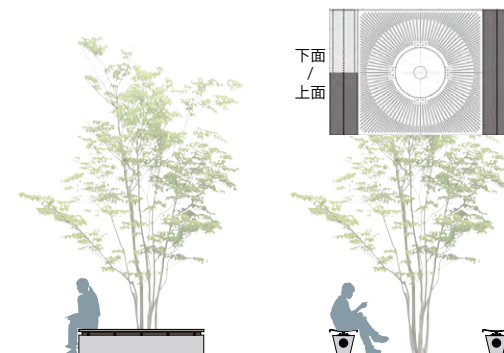
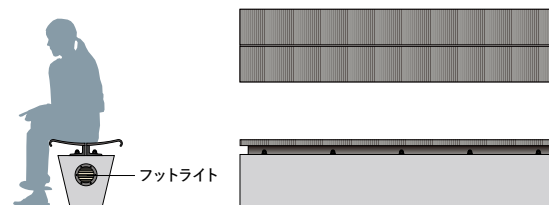


### ◀ ILB 保水性舗装

▼ (例) 国立競技場



### ▶ ベンチのデザインイメージ



## 照明灯・ポラード

- これまで税関線で取り組んできた「光のミュージアム」を踏襲しながらも、特別感のあるオリジナル照明を導入します。
- 洗練された照明や沿道建築物から漏れ出る明かりにより、通りへのにぎわいの連続性を演出することで、神戸の玄関口にふさわしい上品な夜間景観を演出します。

### 車道照明

三宮クロススクエアの空間を印象付ける、シンボリックなデザイン

- スラッと伸びたプロポーションと質感をもった素材（鋳鉄）を使用。バナーや信号と一体で成立するデザイン。
- 表面に施されたナミナミテクスチャーの支柱を間接的に光らせるシンボリックなデザインであり、光の柱をつくる、という意味でトータルの光のミュージアムを踏襲。その一体感とスペシャル感を遠景でも感じとることができる。

### 歩道照明

フラワーロード「光のミュージアム」を踏襲したデザイン

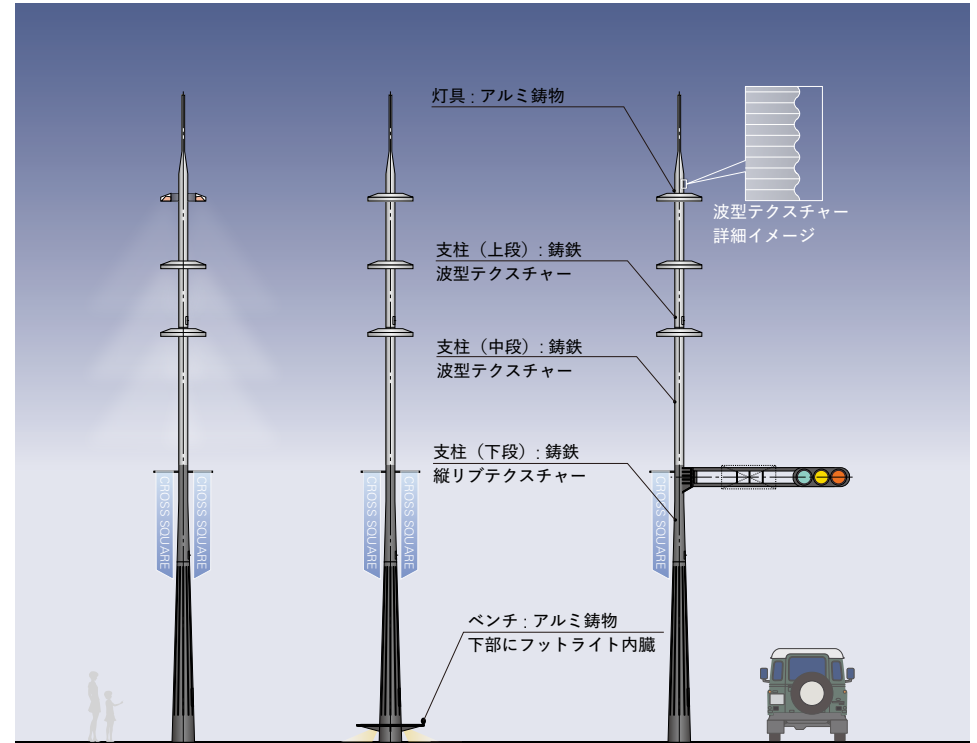
- グローブ照明のボリュームのある明かりと質感を持った支柱素材（鋳鉄）。
- 光のミュージアムを踏襲したデザインであり、頂部に間接照明をつけることで、その一体感とスペシャル感を、近景で感じることができる。また、照明のカラーを変えることができるよう設計。

### ポラード

照明の素材やプロポーションと共通性を持ったデザイン

- 小さいながらも愛着のわくデザイン。デリネーターを装着し、安全性にも配慮。

## ▶ 車道照明



## ▶ 左: ポラード 右: 歩道照明



# 税関線のデザイン

## 税関線の概要

- 税関線の元は生田川であり、明治4年(1871)に付替え工事が実施されました。
- ポートピア81を契機に、「花と彫刻の道 フラワーロード」として歩行者空間を整備し、あわせて「税関線沿道都市景観形成地域」を指定しました。
- 多くの花・植栽・彫刻などの景観資源の配置、光のミュージアムの整備など、シンボルロードにふさわしい風格ある都市景観を形成しました。
- 新神戸駅～三宮～税関～ウォーターフロントエリアを結ぶ都心の骨格を形成する都市軸であり、神戸のシンボルロードとして市民に親しまれています。



▶ 旧生田川

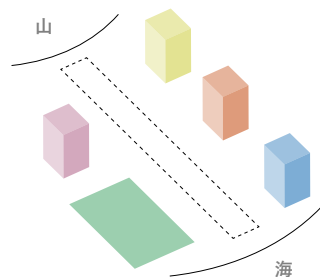


▶ 花と彫刻の道  
フラワーロード

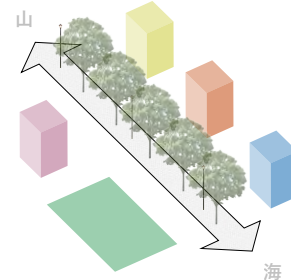
## 税関線のデザインコンセプト

「海」と「山」、「人」と「まち」を結ぶ、  
人が映える舞台となる通り  
～Urban Canvas Boulevard～

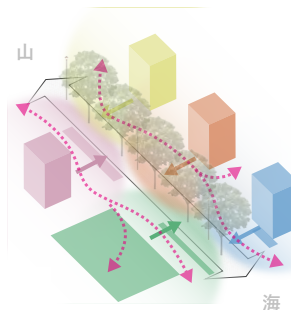
現況  
広幅員道路の周辺に、  
個性的な建物・施設・まちが存在



“Boulevard”  
として明確化  
並木と光、舗装の連続性により都市軸として際立たせる。



まちの“Canvas”  
を挿入  
沿道の個性がしみだし、人々の活動の舞台となるまちのキャンバスを挿入し、都市空間を彩る



「人」が映える舞台となる歩きたくなる通り

- 「えき」の「にぎわい」がウォーターフロントへつながり、さらに東西へ人の流れが促されることで楽しく歩ける人が中心となる空間

都心部を貫き、「海」と「山」を結ぶ

- 海と山を感じながら歩くことのできる公園のようなストリート
- 高質な花と緑で彩られた「フラワーロード」の愛称にふさわしい“おもてなし”の空間

沿道建築物と一体となり  
「ひと」と「まち」を結ぶ

- 性格の異なる沿道からの「にぎわい」が染み出し、多様性を感じる空間

## 整備の考え方

### 歩行者動線の機能強化と 滞留空間の確保

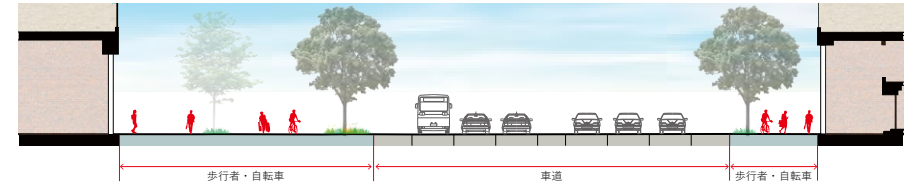
- 6車線から4車線へ車線数再編（国際会館以南）  
（現状交通量 21,253台/日 < 4車線の設計基準交通量 28,800台/日）
- 歩行者・自転車空間の拡大
  - 交通安全の確保（税関線は自転車交通量が多い\*  
（約1,000台/日）。コロナ禍で増加した自転車需要に対応）  
\*自転車の「交通量が多い」場合は、対自動車、対歩行者ともに事故が多い傾向にある500台/日以上を目安とする（道路構造令の解説より抜粋）
  - ウォークラブルなまちづくり、都市の魅力向上と回遊性の向上（歩行者・自転車空間の拡大→安全性向上、にぎわい創出、将来のモビリティ空間としての活用）

### 都市軸としての軸性の 確保と魅力的な回遊の 拠点の創出

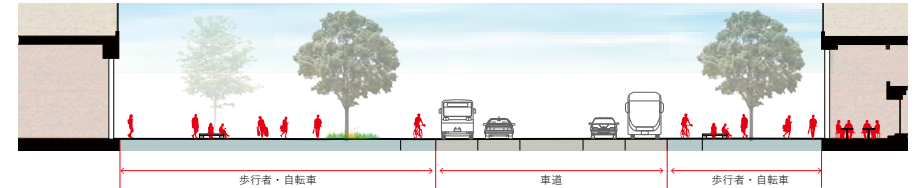
- 軸性
  - 樹木の列植、舗装や歩道照明により、都市軸としての軸性、統一感を創出
- 回遊の拠点
  - 回遊の拠点となる主要な交差点部は、滞留によるにぎわいや憩いの場を創出するとともに、三宮駅～ウォーターフロントへの南北の人の流れに加え、周辺のみちへの回遊も促す
- 歩道部舗装
  - 道路縦断方向に長尺の舗装材を用いて（縦目地を通すことで、）生田川の記憶を継承する「流れ」のイメージを表現するとともに人の流れを促します。
  - 人の活動や花と緑が映えるよう、ベースとなる舗装は彩度を抑えたライトグレーとします。
  - 休息などの滞留空間においてはデザインを変化させることで憩いの場を演出します。

### 公共空間と沿道建築物が 一体となったにぎわい創出

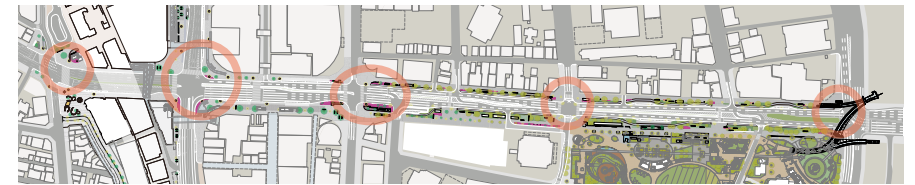
- 休息などの滞留空間においては沿道の個性がしみだすキャンパスとしてデザインを変化させることで憩いの場を演出します。



▲ 現状



▲ 計画



▲ 回遊の拠点

○ 回遊の拠点



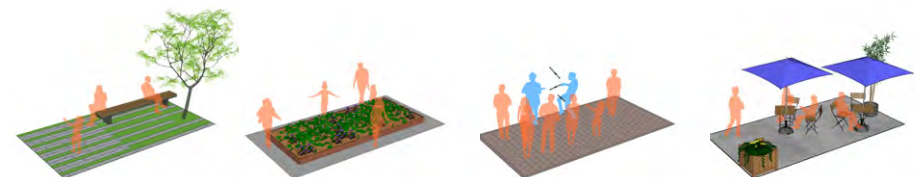
▲ クスノキ列植の継承



▲ 光のミュージアムの継続



▲ ベースとなる舗装



▲ 沿道の個性がしみだす様々なキャンパスのイメージ

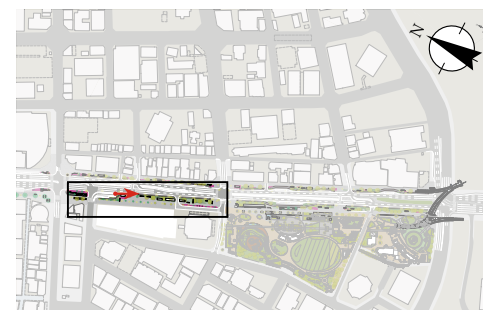
# 税関線 市役所前



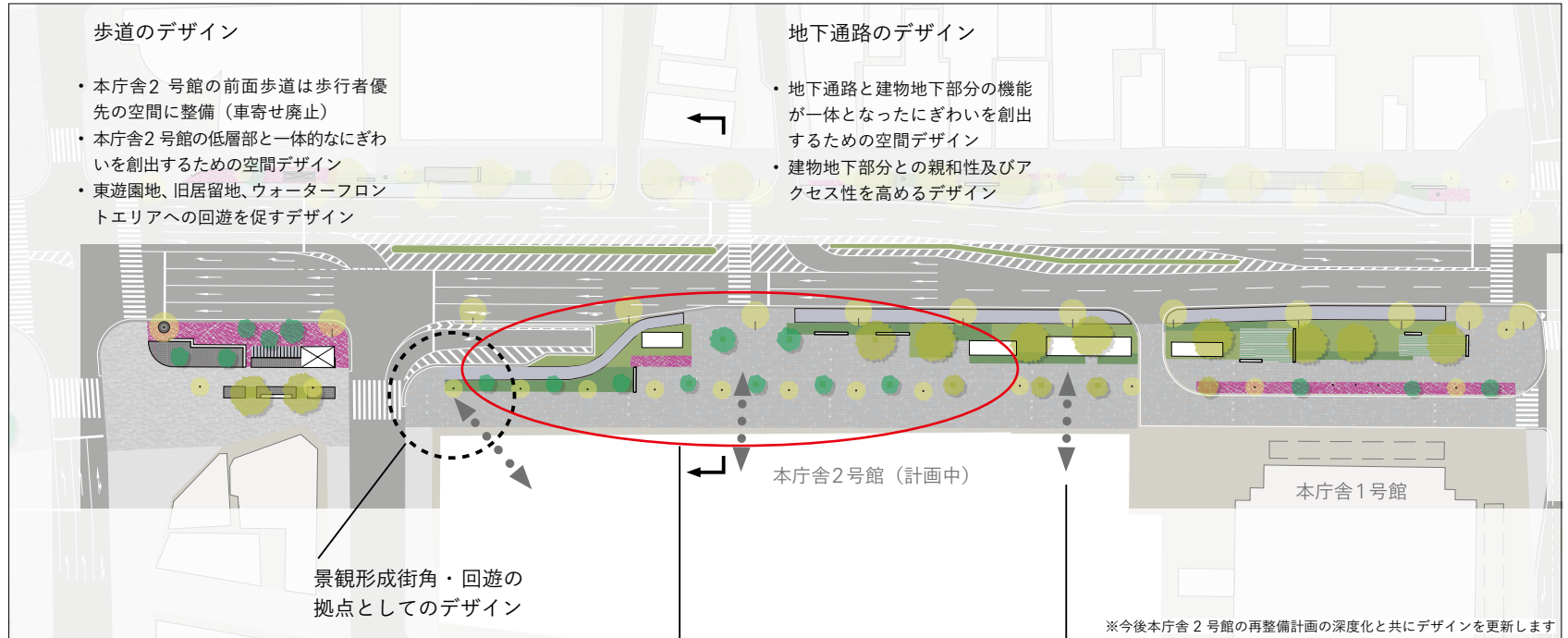
▼ KEYPLAN

神戸市民や来訪者が、日常・非日常を楽しめる空間を形成

- 1 並木や舗装・歩道照明により都市軸を演出します。
- 2 駅とウォーターフロントを繋ぐ拠点として、本庁舎2号館が担うにぎわい機能や市民交流・発信の機能を活かすことのできる空間を創出し、周辺のまちへの回遊性を高めます。



▶ 平面図



SCALE 1/1250

0m 20m 40m

街角の一部として東遊園地、旧居留地、ウォーターフロントエリアへのつながりが感じられ、本庁舎2号館の北東部分と一体となった空間

景観形成街角・回遊の拠点としてのデザイン

建物低層部は開放性を確保し、歩道空間との一体性を確保することで、施設内外で相互ににぎわいが滲み出す

税関線と東町線を結ぶ自由動線

▶ 断面図

神戸市役所2号館 建替 (計画中)



SCALE 1/300

0m 5m 10m

# 税関線 東遊園地前



公園と道路が一体となった空間を形成し、  
人々が憩い、交流し、歴史を感じる都心のオアシス

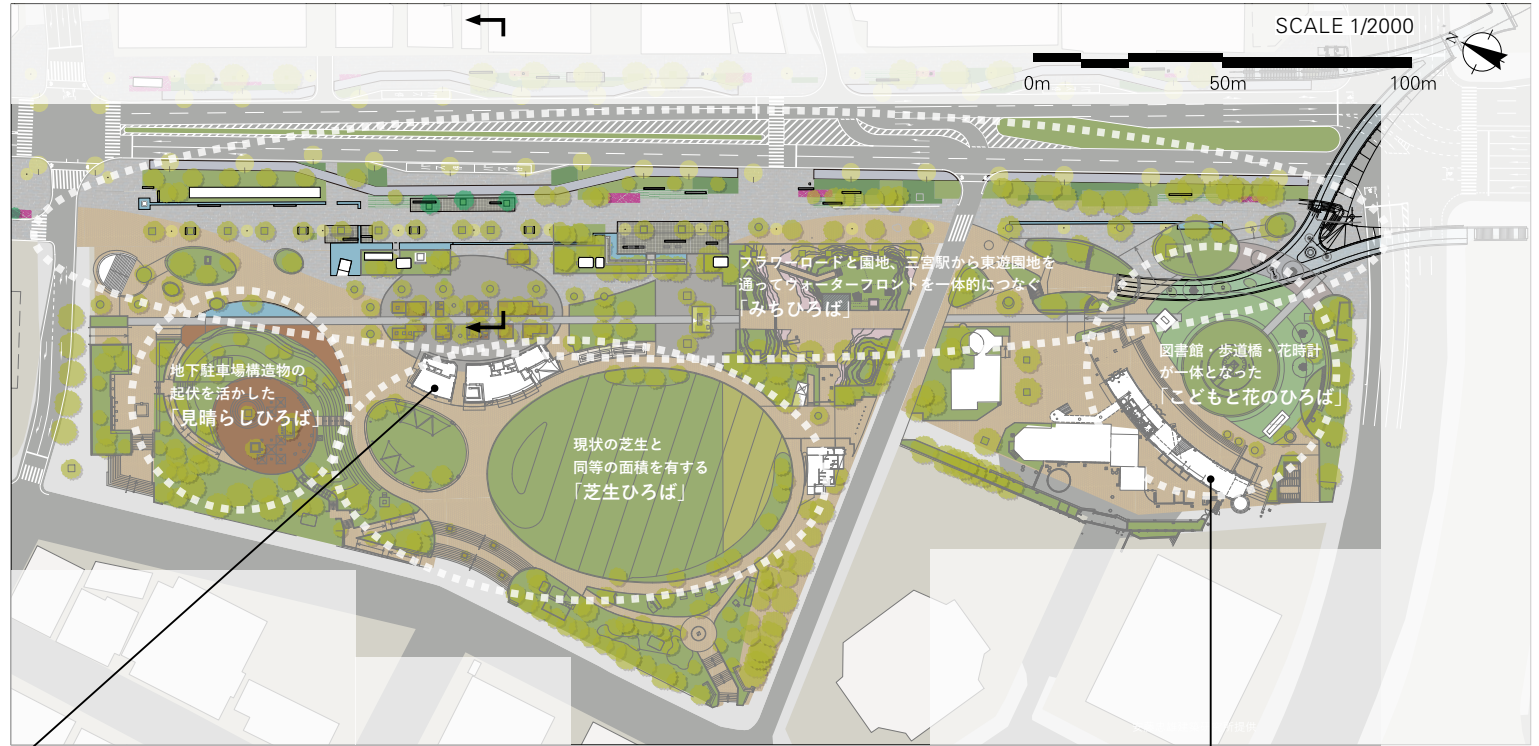
- 1 東遊園地と税関線の境界を感じさせない、公園と道路が一体となった空間とすることで、公園からのにぎわいのにじみだしや公園へ人々を促します。
- 2 粗密の変化をつけた緑の配置や滞留空間の配置により、歩行者が自由に過ごすことができる空間を形成します。

▼ KEYPLAN





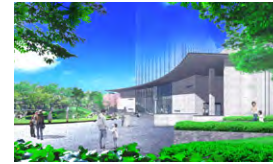
▶ 平面図



東遊園地にぎわい拠点施設 (計画中)

日常的なにぎわいや利活用の創出を目的とし、Park-PFI制度を活用したにぎわい拠点施設。

東遊園地が市民みんなのキャンパスとして、繰り返し訪れて楽しむ公園へと発展するため、公園全体において、イベント・プログラムの開催や、市民の自由なアクティビティを促進するものです。



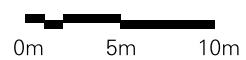
こども本の森 神戸

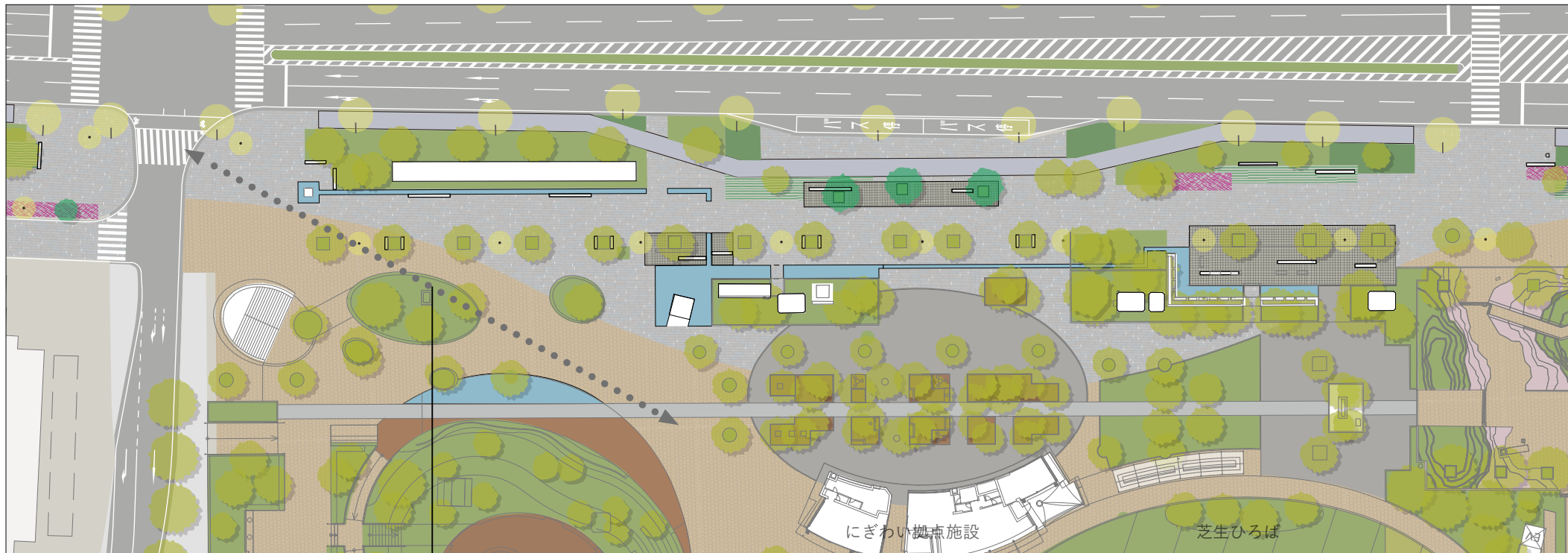
建築家の安藤忠雄氏から神戸市に寄付される「こども本の森 神戸」は、神戸のこどもたちが、都心の公園の

中で自由に本にふれあうことで、神戸の歴史や文化に出会い、震災の教訓から命の大切さを学び、豊かな感性と創造力を育めるような文化施設として整備します。

▶ 断面図

SCALE 1/400



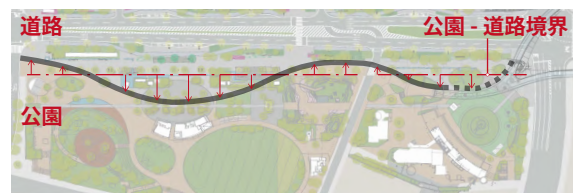


▲ 平面図 (詳細イメージ)

フラワーロードに面したエントランスから園地への見通しを確保し、開放感あるエントランスを創出

### 道路と公園が一体となった空間の演出

- 税関線のベース舗装と東遊園地の舗装の境界をのびやかな波形で形成することで、公園の領域と道路の領域が入り混じるような空間構成とし、「公園の中を歩いて港へアプローチする」「公園にしながら周辺のまちにつながる」体験を演出します。



### 横断方向へのにぎわいの広がり

- 都心のオアシスである東遊園地の良好な環境や賑わいが、道路を挟んだ対岸や周辺のまちにも波及するよう、様々な賑わいの場を視覚的・動線的につながる空間構成とします。

旧居留地側 ←

→ 磯上側



芝生ひろば、  
にぎわい拠点施設



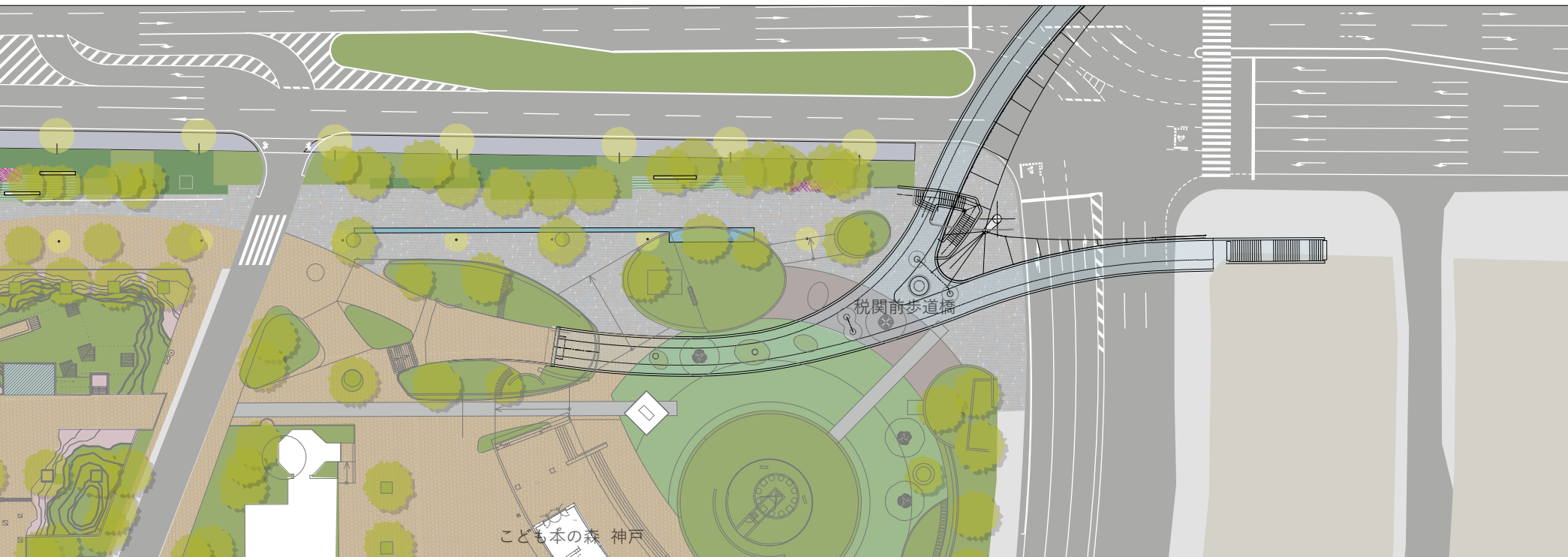
メタセコイア並木、  
ファーマーズマーケット



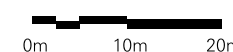
みちひろば、  
せせらぎ



磯上側歩道、  
沿道建物のにぎわい



SCALE 1/800



### 潤いやにぎわいを感じるせせらぎや 休息・休憩の場

- ・ 子ども達が楽しく遊び憩える芝生やせせらぎ等の水景を配置します。
- ・ 「都心のオアシス」を感じられ、ほっと一息つけるような滞留空間を配置します。



### 渡りたくなる歩道橋

- ・ 三宮周辺地区とウォーターフロントエリアをつなぐ「渡りたくなる歩道橋」をコンセプトとした税関前歩道橋を整備します。
- ・ 木立に溶け込むのびやかな歩道橋がウォーターフロントへの動線を演出します。



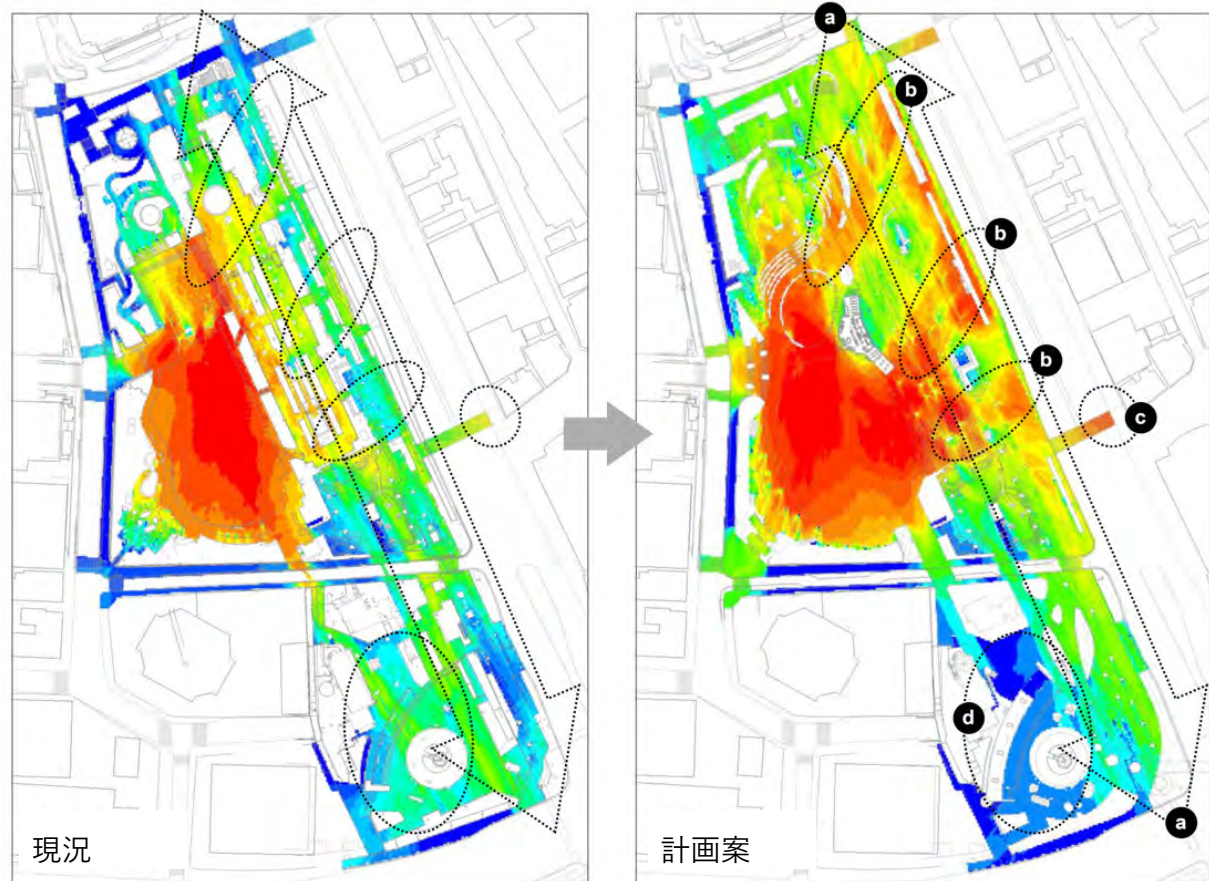
## 現況分析の手法と設計の評価

- ・ 現況と将来の空間指標を比較することにより、その場所の特性の変化を理解することができます。
- ・ また計画案の分析・比較を行うことで、デザインの検討に役立てます。

### 空間分析 | 視認性 (歩行空間)

- ・ 現況の空間的な課題の多くが解消される。
  - ・ 北側はオープンでわかりやすい配置となる。
  - ・ 南側では落ち着いた雰囲気のある場所になる。
- a. 税関線沿いの歩道部の指標値が大きく向上している。空間的な広がりを感じられる歩行経路となっている。
- b. 税関線側から、園地内への視線が明快に通るポイントが複数できている。
- c. 園地中央部へとつながる横断歩道の東側からも、園地への視覚的なつながりが強くなっている。
- d. 建築物により屋外へのオープンスペースの面積が小さくなるため、指標値が低下している。北側とは異なる、落ち着いた場所となることが想定される。

※異なる色レンジで可視化している。  
(実際の指標値は計画案のほうがかなり高い。)

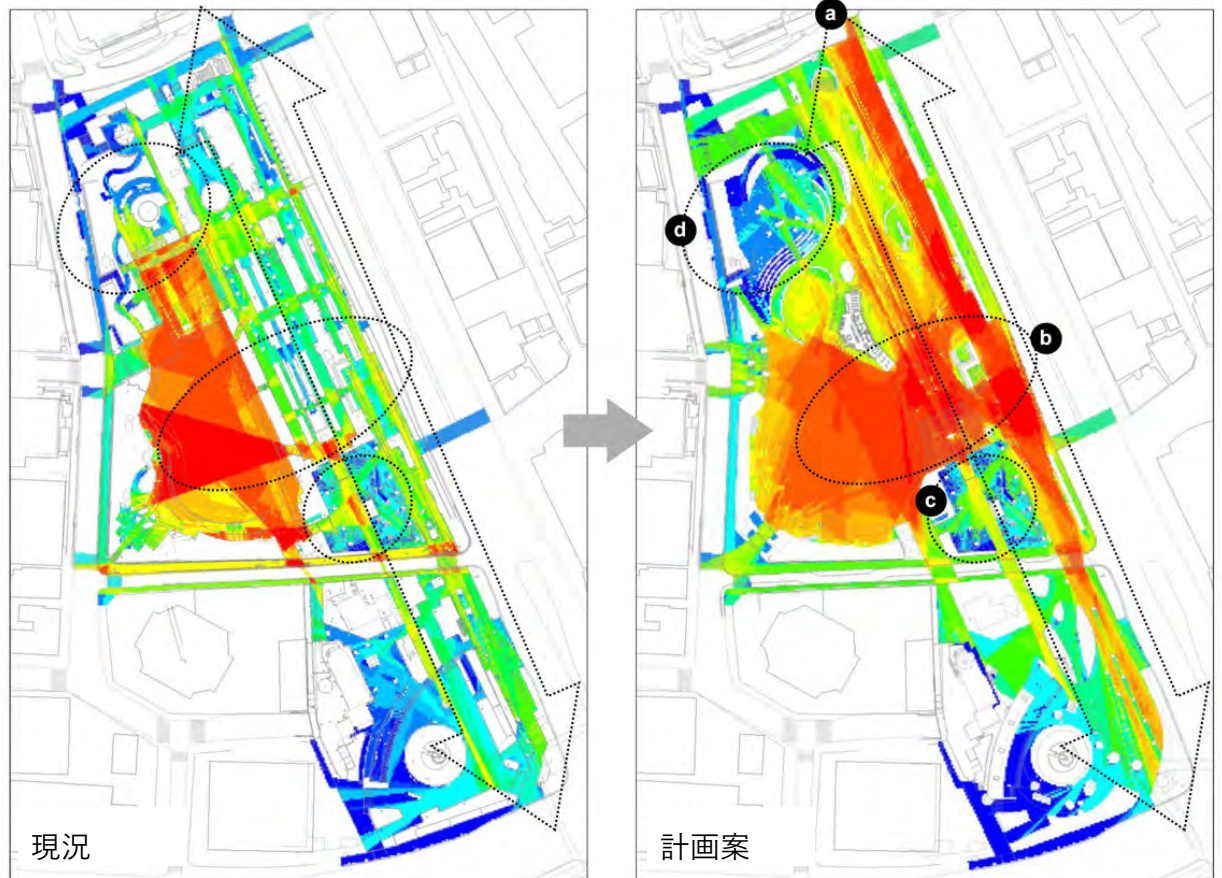
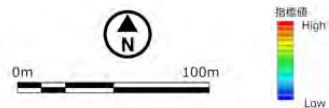


### 空間分析 | アクセス性

- 動線の軸となる部分の指標値が向上している。
- 各ゾーンの位置付けが明快になり、解りやすい配置になると考えられる。

- a. 税関線沿い、南北の主動線の指標値が大きく向上している。
- b. 広場空間への東側からの動線の指標値が高くなり、園地中央部の東西動線が顕在化する。
- c. 慰霊と復興のモニュメント周辺の特別な雰囲気は保ちつつも、その場所が見つけやすくなる。
- d. 北西部は現在と同様、少し落ち着いた場所となる。

※異なる色レンジで可視化している。  
(実際の指標値は計画案のほうがかなり高い。)



# 税関線 — 礎上側歩道



駅からウォーターフロントや礎上エリアへ  
スムーズに人を誘う空間を形成

- 1 目的地にスムーズに人を誘いつつ、税関線西側のにぎわいや自然の変化を眺めて楽しむことができる落ち着いた歩行者空間を形成します。
- 2 礎上エリアへの回遊を促す空間を形成します。

▼ KEYPLAN



KEY PLAN

## 整備イメージ

SCALE 1/200

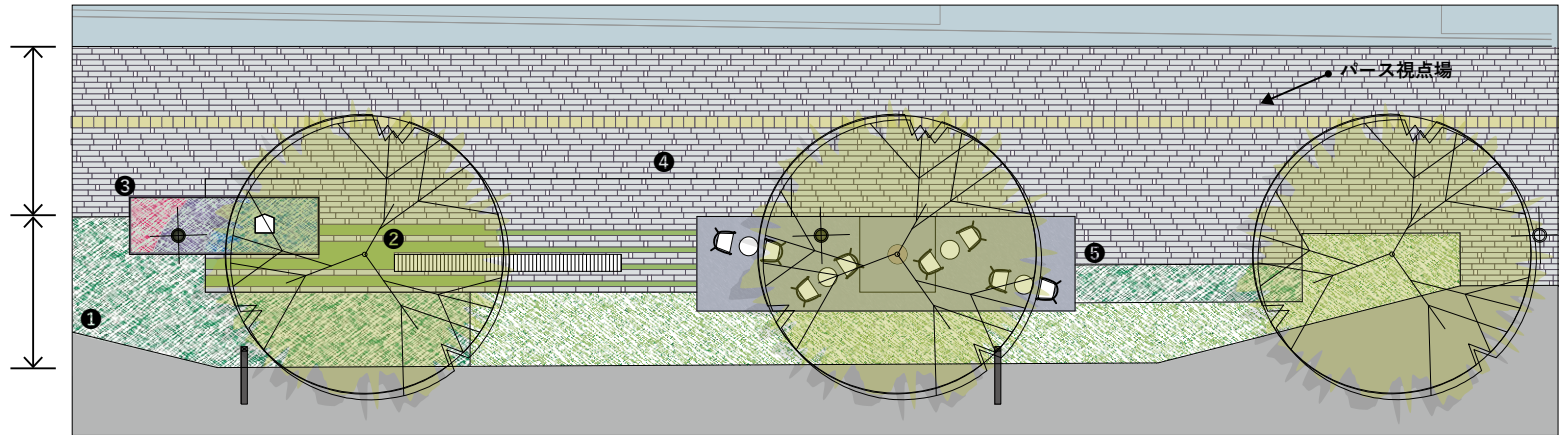


### 歩行空間：

スムーズな移動のため、動線空間を直線的・連続的に確保

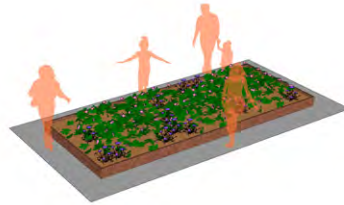
### 植栽帯・滞留空間：

様々な空間を重ね合わせ、変化に富んだ街路景観を演出



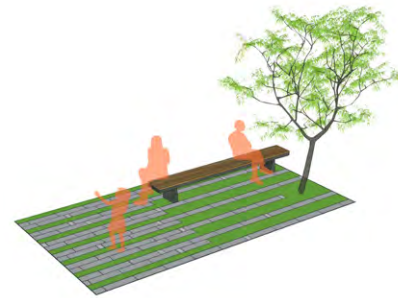
### ① 植栽帯

連続したクスノキの並木を活かしながら、既存の彫刻と調和するよう、足もとには落ち着いた彩りを添える植栽を配置します。低木は多用せず、開放的な視界を確保することで向かいの東遊園地の賑わいや並木の緑を眺めて楽しめるようにします。



### ② ベンチ

周辺の要素と調和した繊細なデザインとし、街路全体のまとまりと、居心地の良さを演出します。



### ③ キャンパス（花壇）

花壇は交差点や滞留空間等に効果的に配置し、季節ごとの変化が楽しめるよう宿根草や一年草を織り交ぜた植栽とします。

### ④ キャンパス（休息）

ベース舗装の間に趣の異なる設えを施すことで、動線空間との緩やかな分節を行い、親しみやすい休息場所をつくります。



### ⑤ キャンパス（テラス）

沿道建物やイベントによる利用等を見据え、プランターやテーブルが配置できるスペースとして設えます。

